

9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

JAPAN

夏

兩箇橋邊勵櫂歌  
汎蜃涼月  
水微波怪來岸上  
血聲寧恰  
雙扁舟櫂女過  
徂來

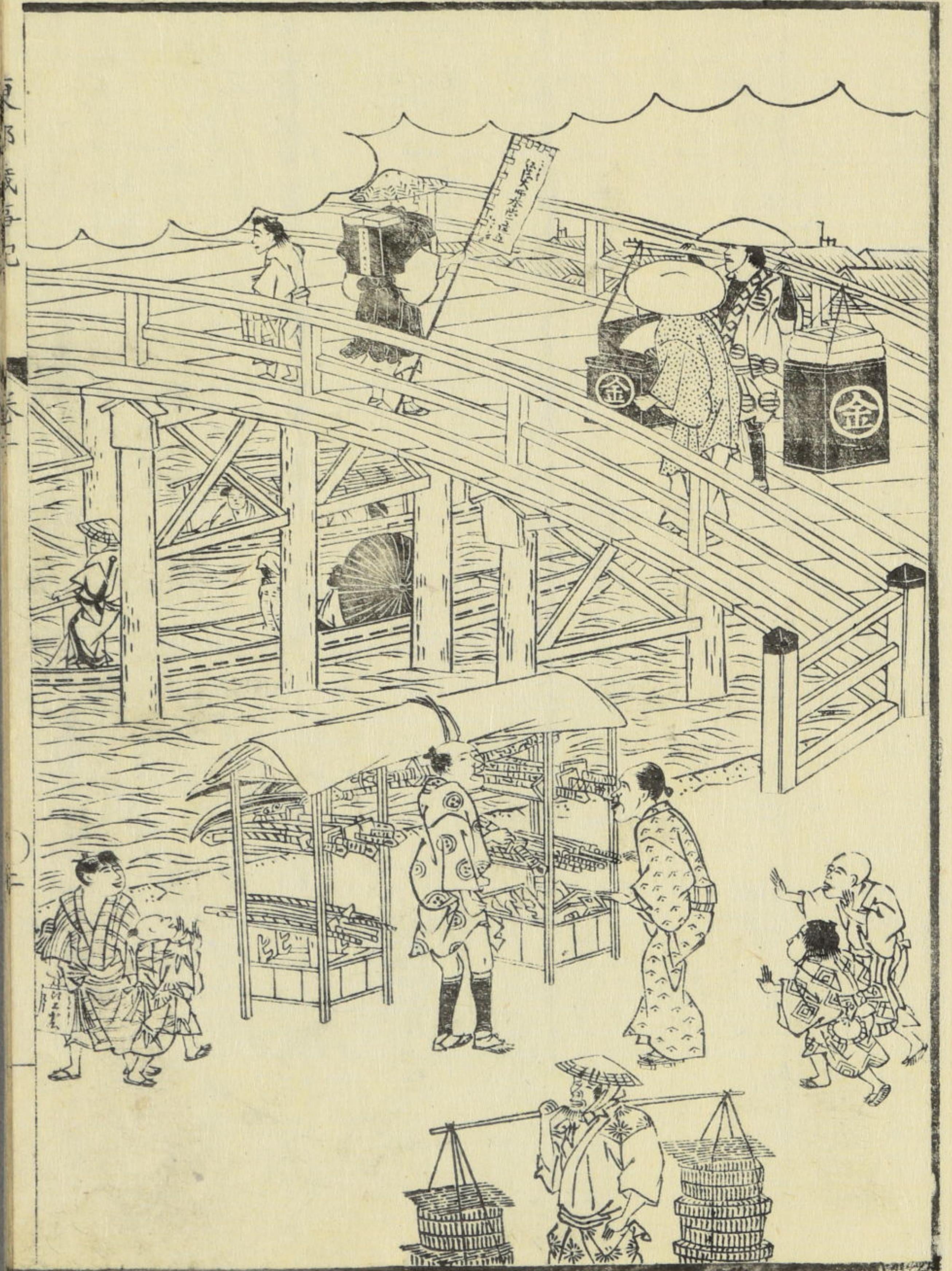


江戸歳事記卷之二夏之部

四月



- 朔日○更衣コロモカエ 今日より五月四日迄貴紳捨衣を着き今日より九月八日まで足袋と  
そくば広人革羽織アラシハナマツを着け
- 毎テ天満宮雷神祭七月迄修行本末小別雷神祭加年互美作とあり雷難除と  
レム今日より八月毎日迄雷難除のちれど出を
- 深川靈巖寺弥陀經千部十日まで修行をこの間乃後
- 東の湯者タトヨリ煙スモを塞サクいて風呂と用ふ組一九月晦日ユメルより
- 初子日○飯食順了寺大カタタ来
- 初卯日○鉄炮洲漆稻荷社祭礼稻荷もの隙ヒダあり 神主キム南キタ山氏
- 山谷カミヤマ合力稻荷社印花祭並況行カイをとれて舞社傍接大林付と拂ソリタリ
- 初年日○荒地稻荷社祭祀 軌車ケイチ並神院カミイニより稻荷と云荒地カモリの邊カモリ之南小田原町
- 二日○奥澤村淨真寺九品佛 弥陀經千部十二月迄修行を本芝林木町の高家  
の日送り花の石臺カキタと挖カキくもの吉田屋の先祖アシマツと并アシマツ妻難産ハラスかく死シテリウキ美支  
三舟ミツボウを考カタマリ矣サ伊皿子大団オダクの不化圓峯ハツカイエンブう爰中アシマツ小岩キタマツて云亦存生の時奥澤河碑上アシマツ人の  
化益カイエイを乞アシマツとアシマツ不果ハツカして死シテぬ今ハ血カクの仇アシマツもえくアシマツ——何卒アシマツの事アシマツ



上人へ坐りて二軒を覗くと二軒を覗く不思議小豆ひ美沢又むらんとうの新妻の男  
又上人よりまことにてみゆともふと人情三十念と板のひしよ靈魂おひきの後  
一つの惟ふと狹せり今程幽きよ傍へて付室とほ七月法事の義徳人よりは

五日○赤羽有る家水天宮毎月とくとも毎月よりて羣集

六日○東葛西芝又村帝釋天祭礼別題經る今日板本を用帳子巻陀羅尼修

八日○灌佛會諸宗も院勤めあり本堂中又ハ境内よ花の事と儲け経像の軒廻佛  
と齋て佛よ供し即の花とけ又花くととし年中行ひ大成よ花供持の強ふるゝ也

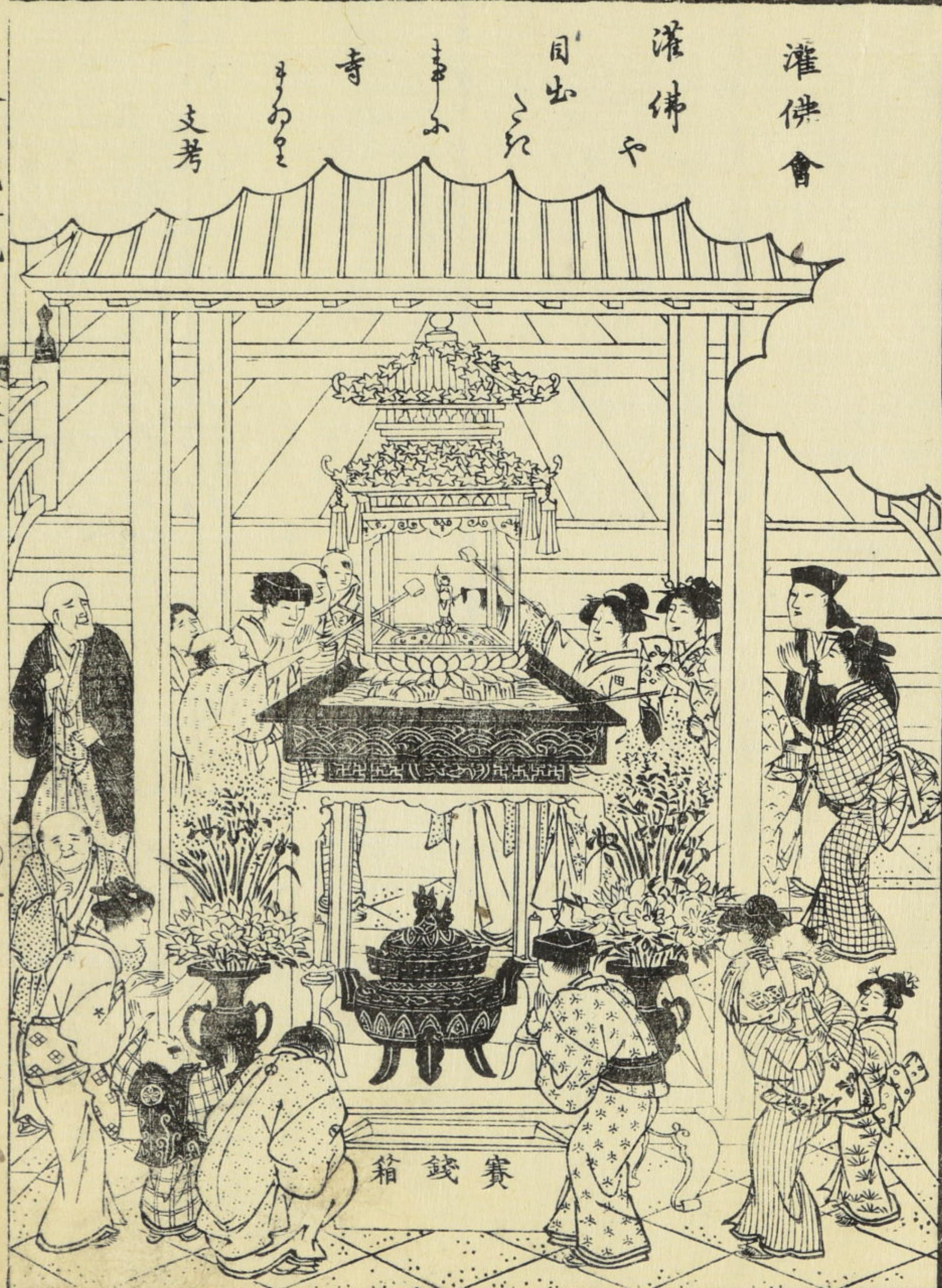
東叡山法華寺を修め増上寺本堂を桃山内諸高人多く來る 法華寺已刻別處大窟落成  
の儀法

あり 本不圓向院同弥勒寺 大塚護國寺 僧持院度身 本辻櫻町

海松寺 輪船と閣て 小石川傍通院○東叡山増上寺 法華寺山門閣く 二  
十六日の始一

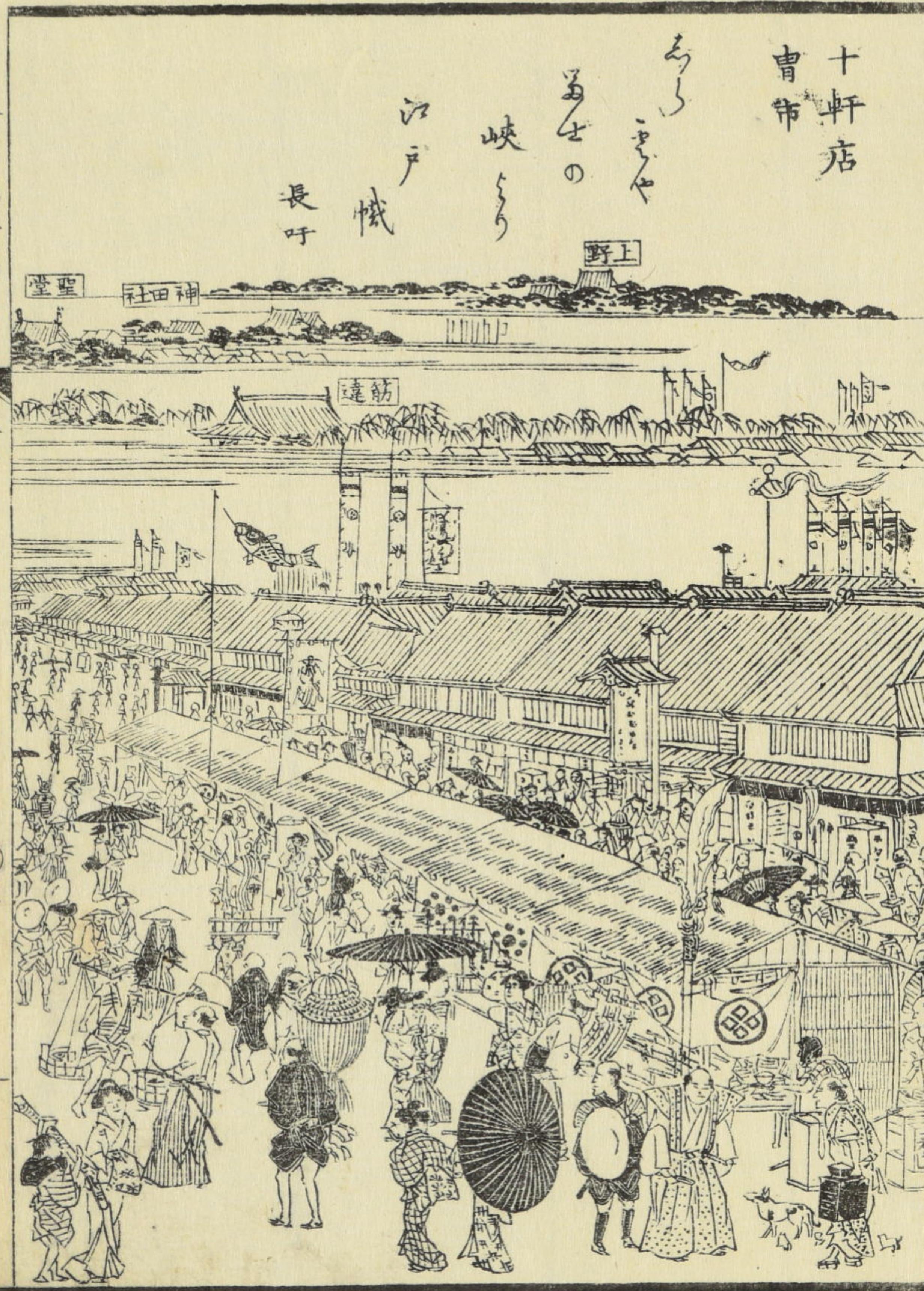
○小日向諸奥寺法花經の文字まで画る五百羅漢の像掛る 正月十六日

○青山圓圓寺 細川順峯の神車紫燈大護摩修持遠供養より





増上寺安國殿 沖系之社燈現御相殿像 同 野寺 源空寺 海画 同  
 堀端松平西福寺 同 同不東漸寺 同 湯島圓滿寺 同 妻戀稻荷神相  
 殿像 海本王子權現社地 高田穴八幡宮社地 音羽町養子も境肉 海本  
 源川三十三間堂清鎮座 海本像 本布羅山寺 海画 木下川淨光也 海本  
 海傍山四候あり 西久保大養也 海画 橋田久保町坊 伊藤民 海画 品川海晏也  
 底山麻布廣尾大現也 千總船橋太神宮社地 海本像 本布羅山寺 海画  
 文化十あまり二年卯月十七日海晏也らよりなる社像とぬりはしき奉りて  
 ○増上も恩本も開帳○品川東海も該も半段大王太く神樂興行  
 ○當月仲旬日定らひ新一橋琴學飯よ於て薬品會あり 稲田より是れを  
 產物医術の要器すも近頃て江戸より医家の本氣のものに來よ出さうと  
 女一日○神田明神社太く神樂興行 汱殿の角へ舞臺と儲け社あへ核爰  
 女六日○今日より六月四日迄宵人形萬葉刀懸の市立 橋田ハ二月の雛布よ同  
 並小屋と拂く甲冑より宵



懺旅挿物る乍葛蒲刀繪長刀弓箭絞炮僵剛刀至外和漢の兵器鐘馗像武の勇士  
の人形木と售ふ形よりまゝ燈燭ようやきをくわうへく買人參教より之。再刻の  
江戸熱麻子より云通隆町者もい町を胄人形細工人多く隆町人形と号して製麻  
なり價の妙と以田舎人のりてもそゝ今もこの名をだよ知る人稀あり云。○け即  
トリ葛蒲刀術と賣あれ  
○男ある都少へ大うく今日より六月六日迄のびりと云  
○府中六本の宮の神玉品川表明神社の流域にて坂離をとり六月六日乃祭礼  
まで存す  
廿七日○雜司ヶ谷鬼子母神常經講中の為よ一年一度の内年あり  
睡日○龜戸天満宮神御衣祭カニミツ因の時冬の御衣と夏の御衣と更奉るの御事  
消して供を年もなし  
○歲月より金魚ひざひ麥魚メダカ木街と賣あるく全真ミヅシムらんうち尾テ尾テ  
尾テ小魚ハコセ也さらさりと數ふあり而く全魚屋敷經と育き  
○初塗魚ハッカツ東洋よこの魚と貴すより化邦は猪を相州より運不味ひ美く鄙絶  
の者も其價と並べて是と求む首夏の頃より鮮魚と擇て街う焉よ  
も聲高タカシキよくまくらへるを以其角ツノ目アサヒを差す右左シラ初うを素手  
人のまくともあくらへるを以其角ツノ目アサヒを差す右左シラ初うを素手  
○七月より蚊帳賣也。宝永の末大坂カツカツてては森美ミツミを支とて説經セイジ名を得一者  
生玉の茶店カクを朋友と喧花よひ心と廻せ一よりを場と退き江府より後河町  
より居せり。一年吳服屋の蚊帳カツカツてては森美ミツミを支とて説經セイジ名を得一



生の次声を出でて賣歩初々まく人美がよろけては年板をすれどり  
毛岐屋賣字うえの始める由にテ塵拾とくも紙よりえり

○南月の末より堀留の園廟同處からもと製し商ふるひく

杜鵑○大と立夏をとてより啼切る故て江戸の邊もこの多きとと  
みけぬの方も樹林繁きうかよとのを多く又啼キ早

小石川向山の辺初とくに初春の時を、あくらべて、  
初とくに初春の里の名より、高田難司谷に谷邊町

後河臺 江原ノ多 神田社 谷中 芝居上あ杜 鳴田川の辺 根岸里 根津辺

牡丹○立夏より二首め以降 源川、水代寺 近年 谷中天王寺中長明院 庭中回廊の  
紅花よく自公連し

ち島村百花園を 深井桂木屋 尾久深山某庭中 その外西く桂木屋より

上小沢村吟本某園中 三百余品あり大本多一 片鄙とくへ ○西う原牡丹専業

杜葛花○立夏より二本下川淨光寺 茶師 境内 池中八橋 アツマノモリ を年社祭の日

日めにほより 本下川淨光寺 墓を架せり 妻妻森 八橋を架せり

寺島村遣花寺 同百花園 根津権現境内池

藤○立夏より十二三日め以降八日限満て 亀戸天満宮神池の傍 樓門の左右は棚あり

砂むし大智寺より境内坂本因光寺世俗歎てとくに近年か一

小日向若狭谷傳ゆる伝者す 佃島住吉 沿路ハまん宿在名不かれども今ち

郊の花○夏至 の日 同黒辺 奥澤九品佛の辺 巣鴨庚申塚とり玉子へ歩き道

芍薬○小波 寺島百花園 百余本 あり 深井桂木屋

五月

朝日○押上普賢井用帳子巻普賢不動院正月のや

○柳島妙見宮用帳○淺草本法寺万巻陀羅尼廿二日まで修行

五日○端午御祝儀諸侯御登城棕糸上有貴賤佳節と祝を 家軒端は菖蒲

竹と又角黍柏糕と製も小児萬浦の戯子を卒○或家ハ文あり町家より延七日以下の男ふ  
ある家は戸外は戯と立宵人形小拂と又坐拂のなりと号して延年へくるが全世の苦易之絶みて  
娘の形とあり行のちよつけて懺とぞよきと色も全世のからむとせの意といふ諧より男児  
と称するの方をもつたる本初の風俗なりといふ初生の男ふのを拂と初の辰向とて引て絶く  
○貴族今日より麻の絣衣と名して八月卅日よむ

同より屋の本筋ともあやめ計斗三河町村の菖蒲やうちらも、秀和「あらやま」等士乃

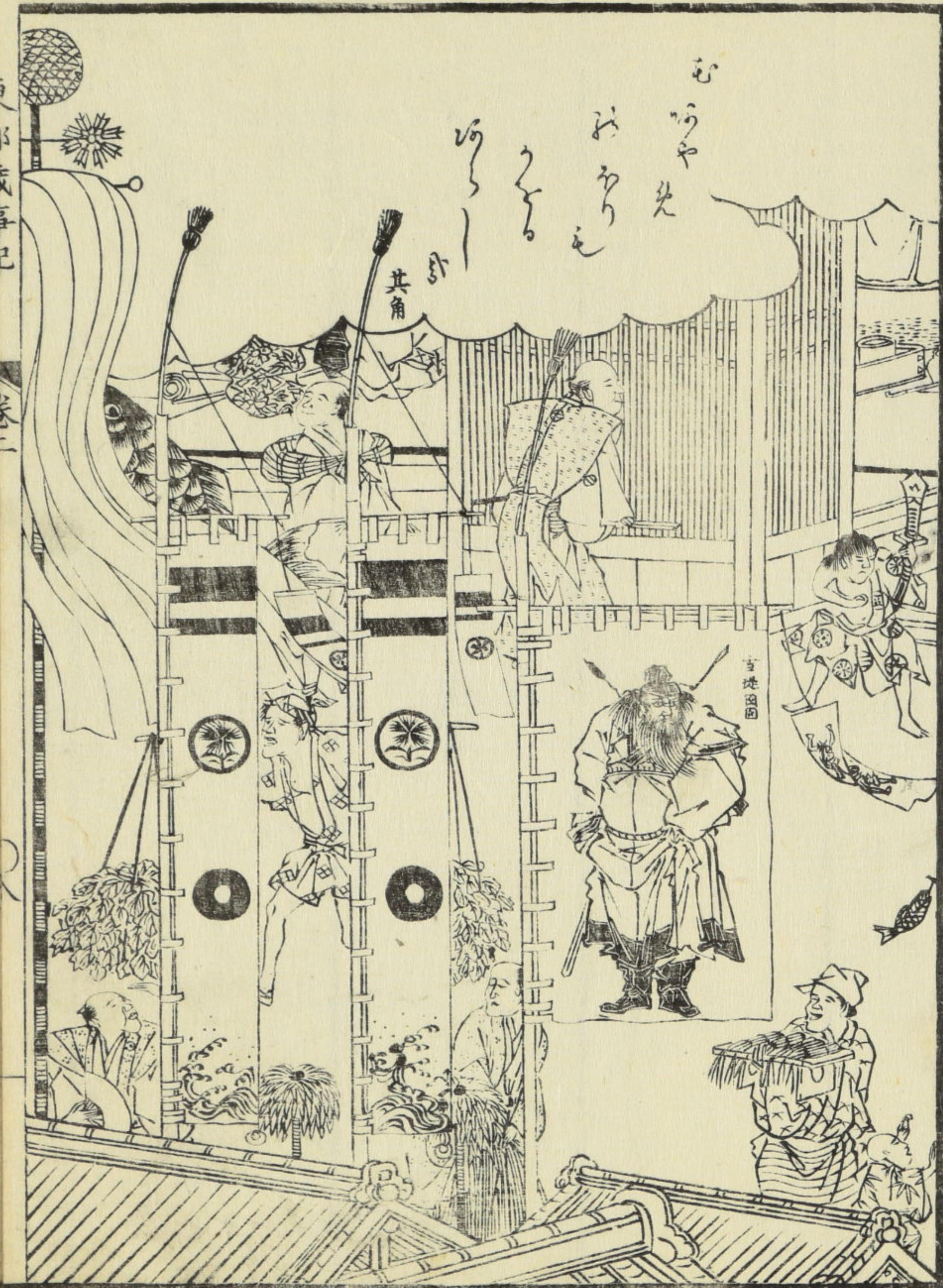
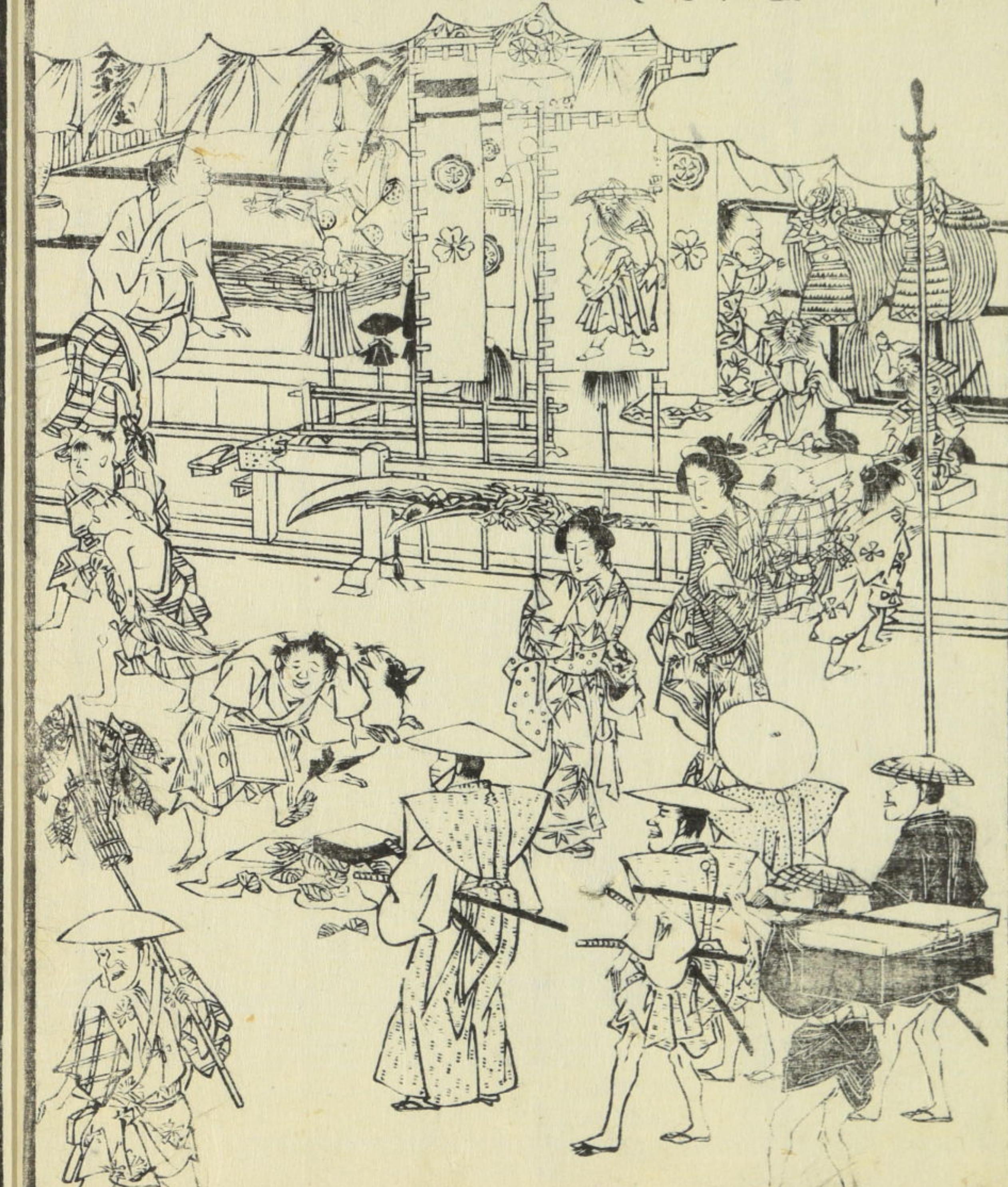
峠より江戸懺長呼「子ハシムね物り懺と子持筋不秋

○同忌太鳥明神祭礼相撲興行 別當 大聖院○池上本門寺祖師更衣

○府中六所明神祭礼神主猿渡氏今夜子刻神燈奉り奉子の家へ路次の上りい  
とありく減して園松は御旗更作事より奉幣終りて還輿の

端午市井圖

武江已歷  
四端午佳  
節時之憶  
洛城角粽  
曾聞化龍  
去世間斯  
類復何驚  
活所



の時篝火と焚き度子の掌桃灯點く煙とまで神樂と供奉も翌日田植の作を而り  
祭祀の次第貨玉少て古れと失ひ是府外の大祭なり

○今朝日初日向不効獻本院まで旅籠とく者群集もをよ水引て浴と能まう  
とうと効め○歲月一年の月より午の日又ハ廿二日而く給るをあり○麻布度尾移荷祭  
九日○龜戸天満宮太鼓樂興行年時萬歳樂と奏し御食幣帛を奉り整て稱五  
神樂と奏一里方隣カタチにて胡簫を廻ひ弓と持太刀と佩き白袍を着る作人一人の方に向ひく  
弦と効め渡すあり

十日○小石川氷川神社神樂

十一日○下谷稻荷社湯花廿八座神樂○元坂田町世縁移荷社十八座神樂○麻布櫛田町物音寺  
摩利支天祭十七日近

十三日○源川森下町六間神明宮神事昨日より執行正月十三日之如

○堀の内妙法も祖師用帳○法事より唐長遠寺祖師用帳○難翁谷家城も祖師内  
外法花も院祖師用帳あり○螢沢宗林寺祖師用帳あり

十六日○芝金杉濱町守後汝千稻荷祭廿四日より始まり社奉神也

○同恩不動寺の地主卑尾桂圓用大行司桂圓用青龍桂圓祭礼廿四日より

○下谷金杉村二島明神祭廿四日より神樂也今日ハ村の祭り○涉谷神社

○同恩不動寺の地主卑尾桂圓用大行司桂圓用青龍桂圓祭礼廿四日より

○今戸八幡宮二十ニ座神樂○山谷正法も毘沙門堂中野も卷院羅尼○樹島妙見宮用帳

○新善院安盛寺妙見宮内神樂○卷院羅尼○白舍妙因寺妙見宮星系○篠土明神神樂

○妻恵明神神樂無行

十六日○田中城院聖天宮神樂汝千人の内あり

十七日○小日向上水端氷川神樂祭廿四日より十九日まで修行内あり

○清風姥化光明神素妙音院持○谷中妙福も日親上人像用帳

○妻恵明神神樂無行

十八日○難翁谷鬼子母神堂子奶奶八日まで修行修了あり

○小柄原日暮も鬼子母神祭十七日より十九日まで修行内あり

○本不出村本佛鬼子母神内神樂○本布袋影田川西妙也鬼子母神祭用帳

十九日○本不出押上最教寺七面堂○三田亮朝院七面宮用帳子卷だらけ○白金三沾坂水門神樂

○波多糸率新相原明神用帳子卷院羅尼○大宮八重人宮神樂○本多嘉陽達院人神樂

廿日○平井聖天宮祭禮別高麗明寺大般若修行

○茅場町藥師如東用帳

廿一日○江法大師奉持平昌也西新井慈持も毎日とも西のみ九日まで諸人奉事

○波多糸率新相原明神用帳子卷院羅尼○子供酒泉町薬翁神樂

○源川砂村源川志演福翁祭サイ寺社護摩修持あり砂村の慈持もあり享保乃以

即薬翁の死台命の育ありて子孫繁榮の大業

宗廟と無祀すあらう一より今は終まく利商人市をすむり

廿三日○沙糸親王その赤字て廿二粁の隊機る○赤坂御町を終る勢を因帳

廿四日○本布相上普賈其開帳十部經修乃事れ○難司う谷家傳手卷院羅尼說法

○油茶大内樓手第花川戸町角ニ坊花の石塊舊念佛修行

○玲う森尼神祭廿二日より拂行二日の如

○南八丁堀御在強の庵は次より般病院のそれと幸運と並めより群集より拂行とく

廿六日○小石川牛天神祭礼 別高院門寺サル座の神樂與行

翌廿七日境内を曜りと催す

○同原町天満宮神樂別高泉寺

○楊弓結改懲懲會 古板結界を作らる非々改めと圖と結び改めの獨り  
本より度無行を少の多い事ハ山王宝善院下のもの等ハあわ邊の仮樓を集り  
猪劣と争ひ猪もる。定て江戸に移す改一表支員二百本あり中は布八十本以上  
朱書百本以上泥書百本本以上金貝百八十本以上ハ大全國と云ふ作法矣  
之へ貞享六年刊まる布の今井一叶の作の楊弓射れ事と曰を初るヘ一もの書も  
天文十八年述作の楊弓射れ蓬矢抄と云ふ注解と加へてくと書つて御之御也  
貞享の江戸下射場高町三丁目給本三意一計漫島天神門前柏原家主の裏延  
の笠原康子ゆき改改場十三本と譽りと奉りと當時改改場の事ニテアトマ町にすあり  
別原記モ如

△下タ町ハ湯治奈美本郷町雪野芝赤根根波葉相應△此の玉ハ服田町桂月半近義好

矣も

廿八日○平湯三満え十八舞神乐舞行

廿八日○同惠不動尊祭禮 女日により紙立の事

○牛込系町報恩も不動も用帳○狗込追分裏頬引寺大正同本ノ不動も用帳

○入谷森宝院鬼子母神手卷院羅尼○白金土筆京雷電宮祭雷除のあれ此地

○二芝居曾我家 中古までハ今日樂廊よ於て多れと執りひそり今ハ曾我  
お猿さ無行する時も例年若我志社の神事と仕初場よりより居立たる江都  
哥舞役も毎度若我お猿と狂云仕組が古報賽の為今日こそと多々なり

○あ玉橋の夕涼今より始り八月廿八日より終る并み東海者せ約松店の所

ゆにて今夜より花火ととりて逐秋貴賤群集を

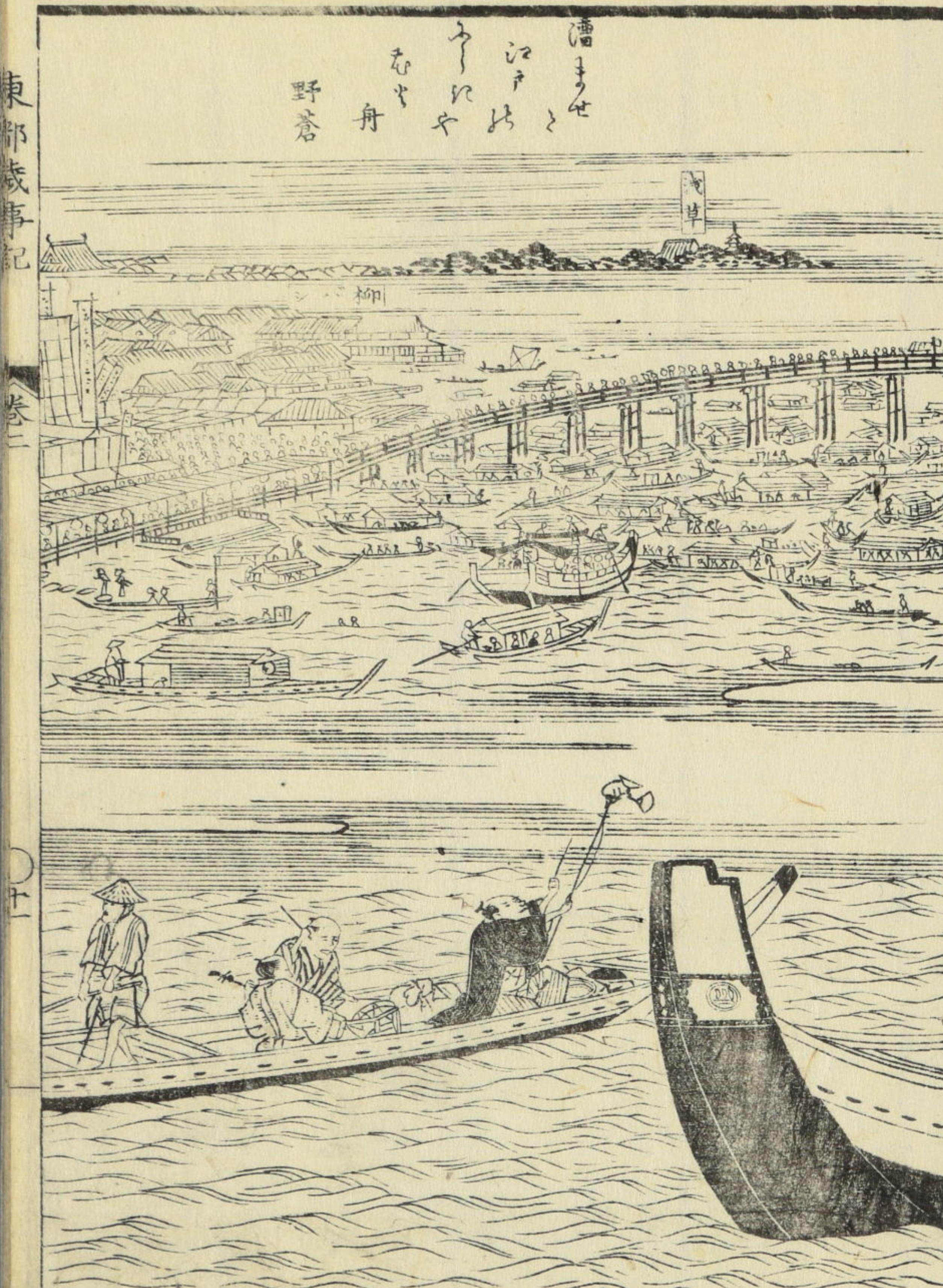
此地ち即ち蕃屋をすうち小も納涼の際の旅立と様玉小たぐひすぐさ方へあし一あ尾  
の宿ゆも油子園の東店掛歯の如くひ寄と偶ふと獨女ハ主の白小店人富士額雪の膚濡  
縫小透りて涼しげとそらもととくくんぬやを浴かと様へ頃戲臺戲事縫傀儡孫猿  
拾戯を余山野の珍禽異邦の奇獸やもと近種の觀物板牌とくげ噴内のぞくまひき  
演史弓射戯笑話漢頭舗相工御家の麻生果石花葉をと物として有らざとづくあく  
あく楊上の往來ハ扇聲浪酒轟く然とて雷の如一激日も音ひけに東店の櫓の行  
教ふ皆お映して晴むるのを経て拂行の拂行ハ波よかきめにて令詩歌成翻  
絃寄一時ふ浦と御之不動忽夜雷の轟に浮うとて音と響きと參まへ烟花空中小鳴發  
妙き如前也自如意舗の期るがよよく風の舞ふりよかく小狀を整休まどひ魂

兩國納涼

長橋三百丈  
影偃綠波中  
人以行天上  
飄々躋玉虹

白石

所本



うもくらぬゆふ持よ人妻とあく姫とあく一擲手令情まどるも宣ひりまふ宇宙最第一の  
壯觀とも謂ひべし。○鍵屋御庭の花火は今よりは又小やにあつて果ぬ御と南へと傳す  
う傳す船と天和の波の花火もそぞろうあはれう自ふうめうの花火。芭蕉「一あは  
れも大写もあれをか其角」かんうと擇千や鴨もみ全「おほれ人情事あはれハ多モ海外全  
く底淨し花火の筒のみかよき。

時日○今日より而く風と雲羣集は六月廿日のとぞもあらわす。

納涼○両國橋辺より大川通隅田川不思池辺六月の半よりハ甚暑トヨリ  
と鶯寺ひよ街の商人多く新の娘ひりと女あり神佛の縁日ハ夏と冬とく  
桂木の余商人とけて舟一回戸店や戸主の御代のトヨミ梅翁  
通す町筋上陸焉門あ度小路山下涉ま雷神門前に谷津つ外市谷渕門外

芝作の宮境内赤羽根川端

船遊山○あはれより涉ま川と第一とほ花火の船ハよにまし。○船遊の名ハ岸舟妙子拾達  
百艘と奉く今ハ次第少減して御根舟本名曰のとぞくに多くなれり

松高日本橋東西河岸

柳橋東深町本西一ツ目辺石原

小網町津川筋遠外御田川至牛込門外

柳橋渡船あり

船形尾根御船牙

柳橋渡船あり

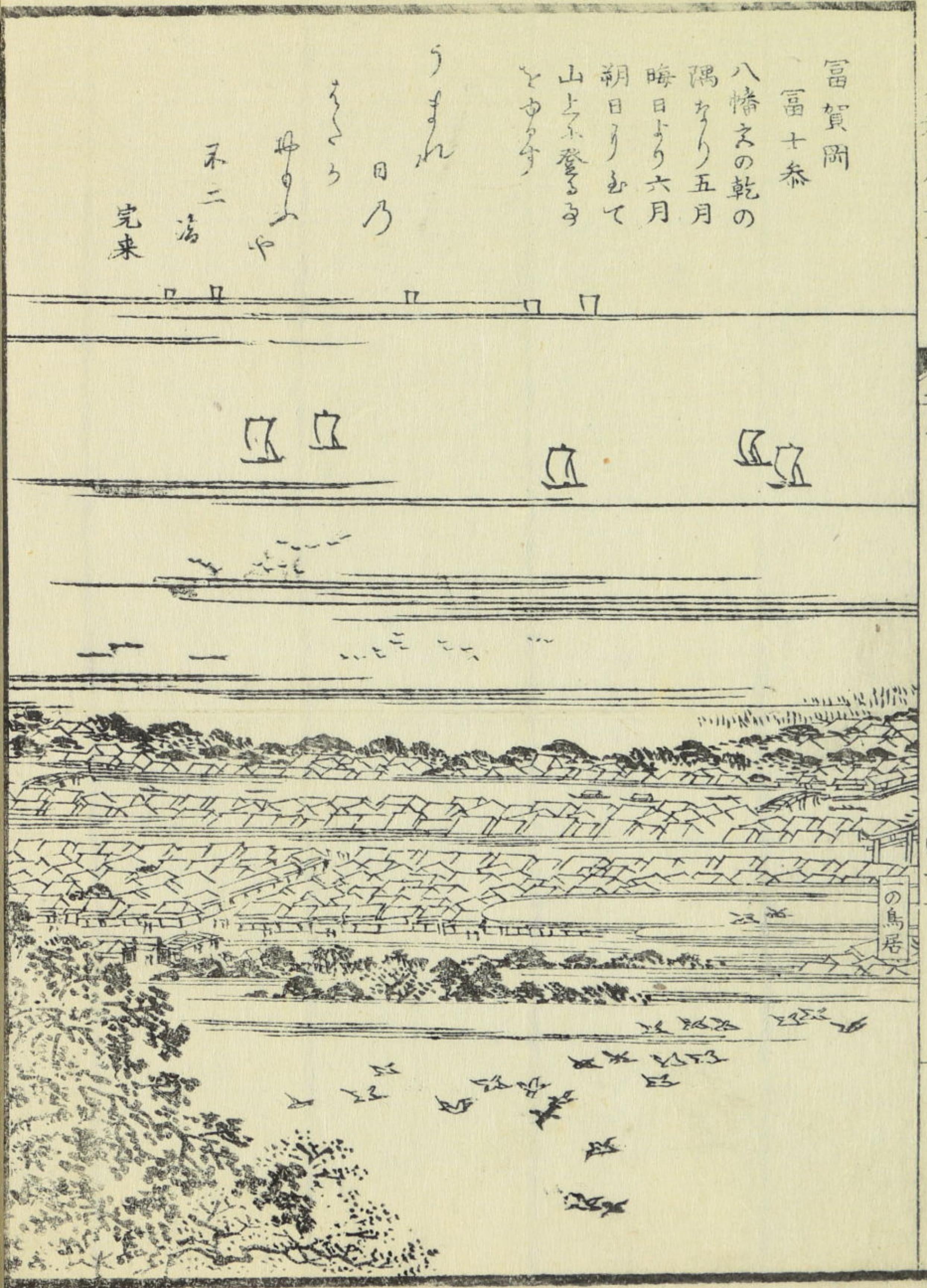
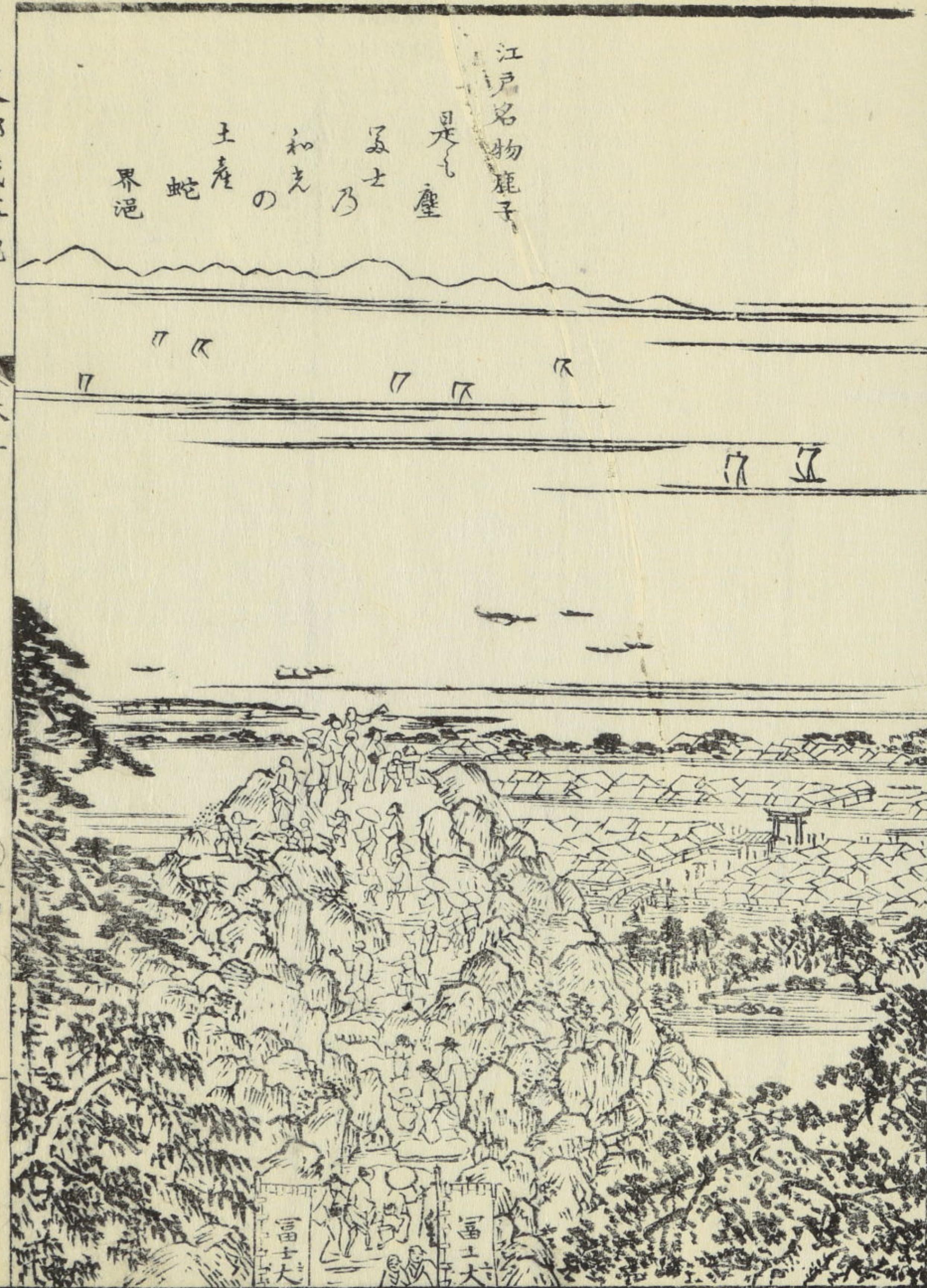
船形尾根御船牙

柳橋渡船あり

船形尾根御船牙

同里辺因烟 王妻森辺 聞因川堤  
○合歡花コムバナ 小暑コウシュ 隅因川綾瀬と名ふとす。ともとあづま  
秧鶴クヒ+ ○立夏より 槩場 佃島 寄島 根岸 標茅シメシ うゑ辺  
鶴川タカワ 梓タチバナ 月より文月の木の邊迄

六月



等坐て候。○本所柳一ま妙見宮内帳

土用○良賤土用見舞 ○土用の中大用もとと号して人氣在中の處候と松ふ  
○土用中日字の收晴の日大塚渡ふ付宮中掛高貴の方の御遺物數多大幅絵  
縁側縁の類とせしむ  
土用庚午の日○も田本松寺願満祖師をうちかね通上頭痛おの祈禱をやうろく伏  
ひ下りて急奏をやうじよ必有る。○通上眩暈。おの夜ある者夏月王子激不動の御ふおれく病を愈すを毎年來的  
○通上眩暈。おの夜ある者夏月王子激不動の御ふおれく病を愈すを毎年來的  
小舞集を

三日○小柄原牛頭天王祭禮九日迄 別廟神翁寺子佐大橋の南宿は假屋敷あら  
社宿み天文十五年六月二日神妻荒川よりよもよも引揚。不の茅代祭で旅あ  
の屋根と蓑を舊例とす又萬國九日太橋のよもよも土人太橋と曳合して宵々絶えら  
○本所法恩寺法華經手部十二日迄修行 囲山日住上人立藏のひより引續修行  
○今明日小石川白山権現社北富士系○手次谷八幡宮境内富士參

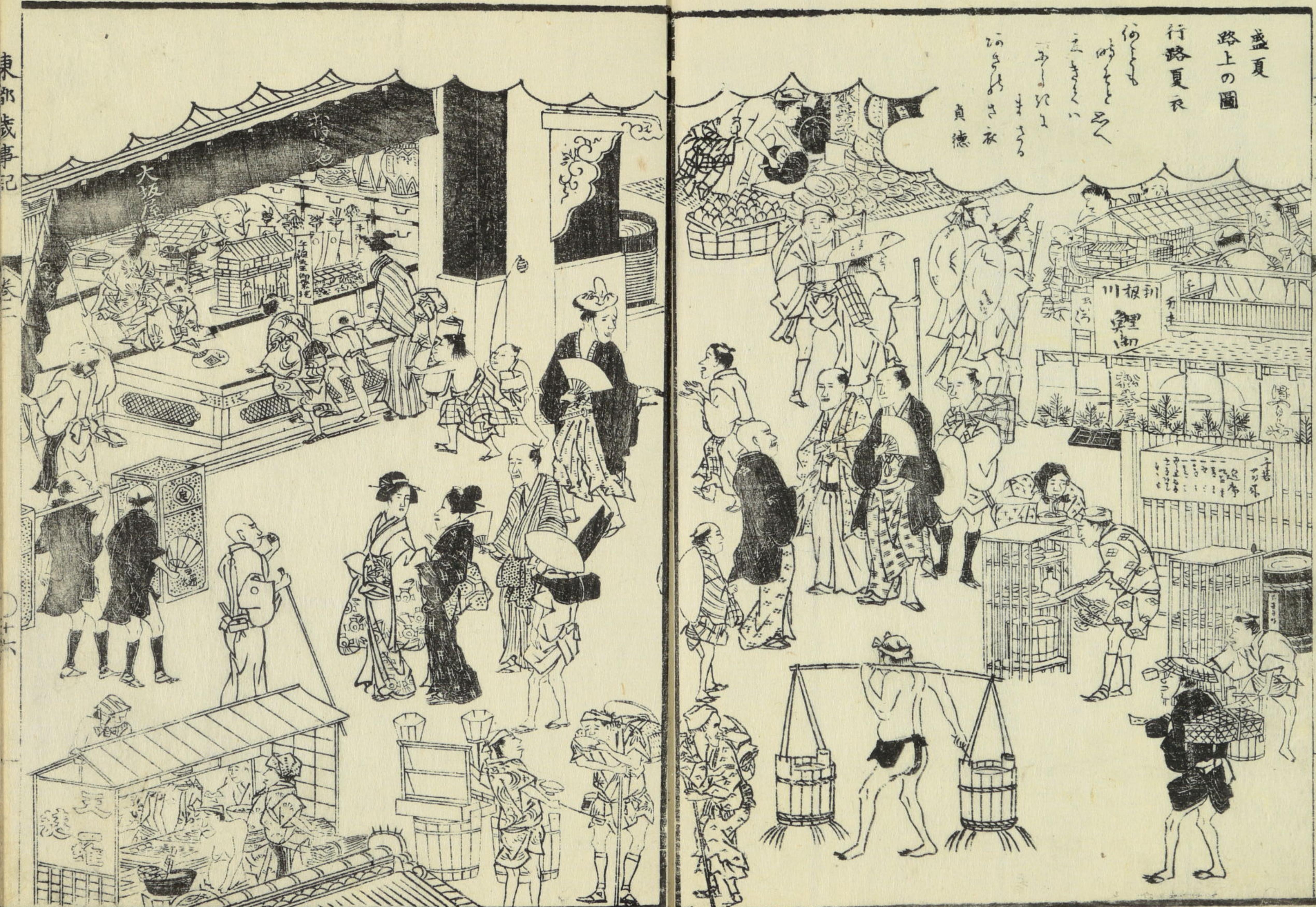
五日○神田社北天王二の宮 稲田瓶 五男三女或云 祭礼大傳る町二丁目清旅布 仮屋敷

へ神幸ゆりて八日は役輿あり

元和により神幸は假屋敷とし御神酒と名づけ  
御宿は家主と儲け神事と掛け修業法さく高結のまつめうきとくふ

街の繁昌さくに家主のみふへり。○行列一番小懺十本以ふ左鼓 林 金海  
伊神許 左鼓 櫛子珍ニ 嘴 小左鼓 神妻 神几 社祭二人建る け櫛子珍の  
添ふ完永充耳。とゆり

道筋約八時神田の社地を出で湯島横町坂と下り神田旅籠町仲町加賀原の通筋達  
津門を入て湊田町新石町左ノ同町と福町の写るの鞍横町と並ぶ紺屋町と町目代地より  
左ノ曲り丸軒町より引返して平永町へ入紺屋町三丁目代地又引返して左ノ横町と  
地と岩町の右左ノ武藏地の前左ノ紺屋町二丁目を直り東へ同二丁目三丁目の写ゆく出  
度り同二丁目を直り松下町を丁目代地より引く。九軒町の湯屋出度り今川橋や結  
より御治町の角へ出度り左の湯屋大傳る清町と本銀町四丁目の写へ出大傳る清町通り  
をくらやの表つあ度り左へ清炮町右へ本銀町写同二丁目三丁目より湯屋へ出  
度り新開橋渡り紺屋町へ出度りそ織田町安下町代地水篠町の大通東南裏  
紺屋町新軍町同湯屋へ出今川橋渡り本町三丁目迄右へ同二丁目三丁目の間南か出  
度り同三丁目河岸少へ出度り左塾橋まで同一直橋の半程より引く。本町三丁目二丁目  
の写南か出度り同二丁目三丁目の写南か出度り同二丁目軍同の写南か出度り同里同  
と大傳る町まつ目の写南か出度り同三丁目三丁目の写南か出度り通油町まつて左  
通油町と写り通油町より左を旅籠町まつ大傳る町まつ同三丁目と大傳る町まつて左  
旅籠町と写り通油町より左を旅籠町まつ同三丁目と大傳る町まつて左を同三丁目  
度り大傳る町二丁目同三丁目と三丁目の写南へ出度り通油町まつて左右出度り大傳る町



之町同二丁目之丁目のもとより東へ大傳る塙町迄左へ同町より本郷町  
に下向と大傳る塙町の宮南へ出處り同町の橋とゆく渡り甜食町之丁目河岸と九野町  
河岸の宮の橋を南へ渡り先の及大傳る町至丁目より更に本町を同至丁目河岸まで  
左盤橋上より引廻し河岸をりより本石町奉丁目二丁目左へ至る町今川橋あり筋道  
御門山河岸通壁半様の坂より社地へ入る

彦子の町友 通旅篭町 本町壹丁目 同二丁目 十軒居 車渡町  
壹丁同 同二丁同 同三丁同 同四丁目 同里新屋敷 金原町 細屋町壹丁同 同二丁同代地  
同三丁同元地 同二丁同元地 同三丁同元地 同二丁同様町 同三丁同河岸 丸野町先地  
福倉町 新田町 松下町壹丁同 鮎革廊町 先多物町 岩村町 伏木町前森地 本  
銀町新地前森 甜屋町二丁同新地 東側新屋敷 松下町二丁同 同三丁同 福倉様町  
新革廊町代地 同三丁同元 大隅毛利町あり  
七羽集落同との役所あらわと松乃葉も書くと同の御旅外 其角

○浅草寺門外第六天神祭礼  
本社と並んで又へ奉られ  
本社のより柳橋手あわへ下車  
先の裏へより少へ森田町  
まへ平右衛門の家へ入間すと天王町  
二町目より出度り又へ同町の写より後井町  
通り而へ天王町の写改正會而來り  
支づれり又へ森田町と先旅篭町二丁目まで  
れを絶えぬ  
もより、二月九日、  
より隔年今日秋興と假をたる期の如く

前様や町出度り書替西近町原より出度り元の小橋渡り射塙より遠て洋念もあらず東へ小石川留置代地銀やしたの写よりある場のああへ武家比南か出度り元の三輪のふれ射と、町代地と塙奈山とその間出度り小へ移と、町原舟町代地後川町二写町役家町出掃除屋家射と、町元舟越町木の代地的場の写様原町代地少へ六尺半に及む町と二間町の写より同大なり支より出範あ通りと及舞ヨ)

神事も天保己卯よりもう一のこととくつづくあり  
一番 淩原旅館町 一丁目 二丁目 代地 三番 同上  
五番 同後町一丁目二丁目六番 同上  
方舟旅館町九番 同森田町 以上十三町なり  
日 ○ 玄京どぶ床安遠寺且而用農園の寄也

日○神田社地天王一の宮 鳴<sup>モ</sup> 南側の町二十間の街旅雨<sup>ハ</sup> 神幸ありて  
十四日辰興あり 南面へ清旅先のよりま至十八年六月七日より始ると云ひ旅大寺の町  
神輿渡御の町くなの如<sup>一</sup>

筋引の時本神田社北より湯島横町大通り神田仲町筋渡橋門へ入須田町通り  
今川橋本銀町本石町本町至同同河岸より方疊橋御門へ入松平城本庚溝町发  
津船又方定小原の前より大手筋橋より神輿を屢々奉幣ありまより元の筋筋度盤  
橋渉の因より法種橋をり數寄屋橋内近支より元の佐呉後橋御門と出店り而河岸  
町河岸を元町本町至同より同三丁目近支より引く一  
ま馬町本町を通す同よりより町通り京橋のよよ神輿を屢々神酒を拵く主

東都者歲言

卷二

二七

庚りて南はる町二丁目の仮屋より生あらば中の刻  
十四日坂社乃筋タ八時以假屋を出で京橋まで引ひてより筋邊櫻井門を出で度モ湯ま接町裏より聖塗銀石坂を登り日暮坂社坂

あり山王神祭の年ハ十四日子午還輿あり

彦子の町へ通す子自同ニ子同同ニ子同同ニ子同同ニ子同

吉久町 美町 楠原屋敷 三荒屋敷 吳坂町 平松町 本羽町 本村町 千子同 同ニ子同

小松町 佐内町 川瀬石町 元大工町 南油町 駒込馬町 敷島町 菊原町 岩金町

桔正町 本村町 千子同 田中屋敷 上桔町 油絞物 本桔町

後浜町 松本屋敷 退义平屋敷 南桔町 大瀬町 正木町 梶町 本村町 千子同 南桔町

佐木町 圓幡町 本村町七町目 佐野町 柳町 兼足町 墓町 本村町 千子同 南桔町

炭町 本村町八町目 本村屋敷 退度亭千子同 同ニ子同 宮元南竹町

○品川牛頭天王祭禮 南品川天王ハ貴殿御体の相殿あり 渡良小品川天王も東海も

昇入まり南か東社の神輿中の櫓もそろひ旅宿南か北も見る有ること櫓と御連の

櫓とりよろづ旅手も南か北かより本社中渡還の内東側より假屋とからくの御神心ひし一乃

洋と飾る今日より十九日迄多旅出ゆりその娘ひしもん方すすめお社事あゆみ輪

と品川の境近南、駿洲の街よりよむる又泊ひりの村も彦子なり

八月○浅草寺施前牛頭天王祭禮 別高大圓寺 社事の渡還より假屋と浦程で宵

未と付て神あへ取む行人まきどひて疫病除のもととて毎すすりて争ひもとて

偶羅イヌキノ木半午ハナハルかふ世俗カフセイク子天王と稱す今月御舞林拂り津屋森スミヤマツと渡す名勝町メイセイマチとたの如一

六月九日

千住大橋

網曳

此行事

壬午年

青藤山人

路志下大

明一統志

日拔河之

戲湖廣歸

州俗以麻

絆巨竹分

朋而挽謂

之拔河以定勝負而祈農桑見えり



綱索や

左乃

利

大男

宇月



本社と坐て道通東少へ先旅薪町二丁目近岡丁より出廓り岡三丁目二丁目の間  
ゑへ曲り津念ち門前左へ折坂噶毛り書賀不占用原野あ出廓り岡御坂も冥の色  
ふほひて後富町引旅薪町と是り引坂噶小橋渡り寺松院門あ三筋町並をり入先  
を城町中通りと多城町引旅薪社の後通と是り事へ天文不占用原野あ御坂町一丁目の弓曲  
り様居町小橋渡り油田家山屋敷は付て極多内橋追岡橋障より先の様居町  
あ山屋敷あ更へ出南へ尾町近岡不東の少路へ入旅薪町二丁目代地通岡町代地崎南曲り  
右へ茅町二丁目大通りへ出南二丁目少へ出廓り太毛りと南へ本六丁目代地と茅町二丁目  
の弓曲へ出廓り旅薪町門外形の角へ出廓り茅町二丁目第六天門あたり柳橋障近岡  
より席りゆへ下平と喜多町河岸より岡町少の方へ出廓り下平ち喜多町中のき岡森田町代地  
と茅町を丁目代地の弓へ出廓り第二天裏つよりより茅町大通りあへ岡二丁目の弓より  
左へ梅井町茅子目へ上平左喜多町より出廓り後井町二丁目通岡二丁目かのを廓り岡の  
通より少へ岡二丁目二丁目の弓へ出廓り尾町通本枝へ還裏あり後井終りて社の後廊へ迂  
まくに翌九日夕大廟本枝へ没せあり

九日○濱草鳥越明神祭禮 八日より娘へり別處長樂寺、伴え織本氏古集爲因  
の町へりかへり經り船と渡りたる同一年不中絶も神輿ハ隔年今自產多の町と後也  
不約本社の前より南へ先を城町福富町を丁目書賀不經町原銀山廣く寺松院門  
を西へ三筋町南へ多越の作後西へ或家地り三筋町又本社の前を南橋渡り様居町  
と山田家山藩の名とり天王町の名前へ出天王社前より引坂噶毛り森田所  
まへ多河原坂小橋渡りあよを社の多河原武家地へ喜多家が松平家内多小移の源  
さりかへ大久保家坐る家を主戸田家三筋町後井よりよう引坂噶少へ出廓り小橋渡り  
津念ち様りり出廓り岡町の前を寅坂町代地岡水る場ふほひてまよは御舟大通也

卷之三

卷之三

猿尾町へ入る右山中廻り野まこと町東うら山家並み桃林寺跡家も家小移渡り東へ  
町筋川町山廻り左木本より先の小橋跨り車引寺引安寺の名義へ諸寺門焉  
正福院と東岳寺の写より南へ是る覺ち葉翁もる山廻り蓮光寺法泉もつて聖廟  
称念す延命院もる山廻りあへ子源もあれ新院様山廻り鐵圓家に中れお松翁家の  
弓筋へ小鷹町花翁院様山廻り佐竹家様通小川よ源ひて對川家山廻様通まく松平  
至別庄山蒲のあへ入松浦家井津家山廻の写七曲り通りを角橋渡り新之浦裏より  
寛政八年の番組考あ町数廿二丁山一數十七町一宿り也と申下るあり

日○神田社地天王三の宮  
山田の大蛇おさむち  
奇櫻田きじりた、小舟町こぶねまち、御旅所みよしょ、浦津うらつ、神幸かみゆき  
ありて十三日帰輿きより  
喜れの元姫洋ひめよう、列�の次第大はる町おほはるまちのこととす、  
のす娘むすめひととよ務むきくらり、小舟町こぶねまちは遷はなげよ、  
なる樓とうへとたそ夜よ、燒やと點てんをは事こと、  
のほより、歌うたをとと外ほか大おほ焼や、燒や桃ももかを  
うやう、卷まき中の光ひかりを経たどのるよ、  
べハ也よ處ところなり。

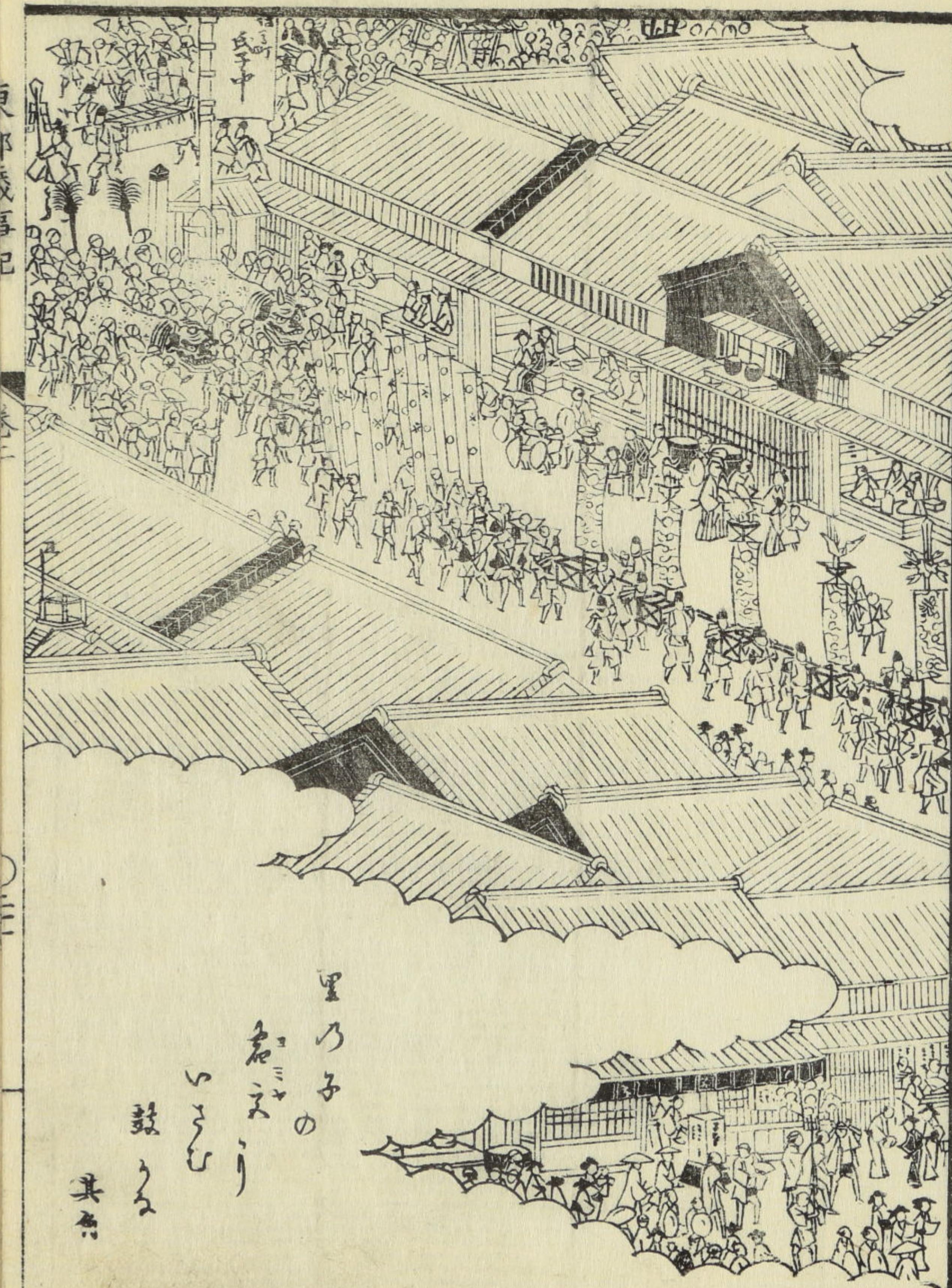
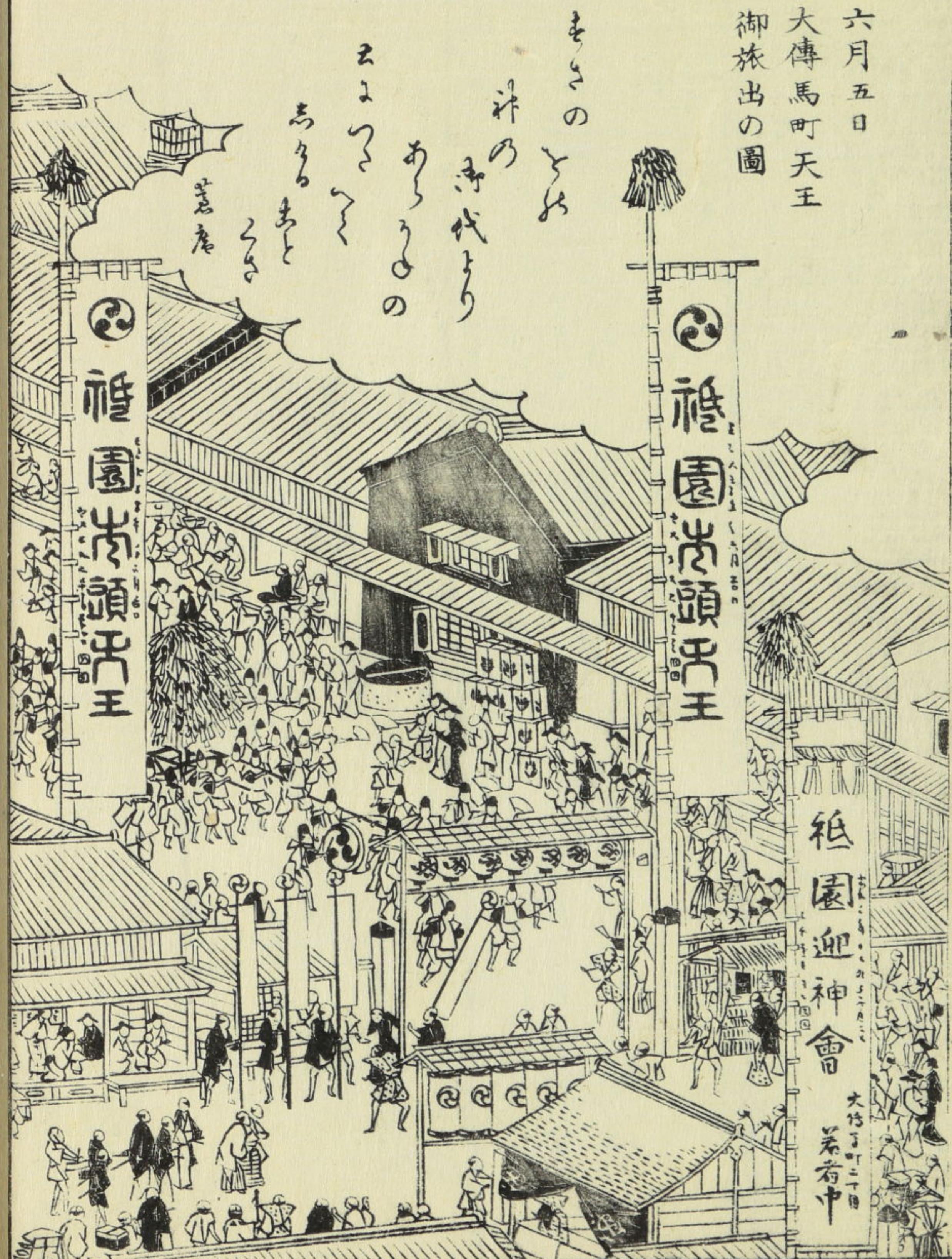
通り今川橋渡り本石町二丁同様町本戸より席り同三丁同四丁同様町小はる町幸同  
二丁同幸同弓削町幸同同様町より左へ橋本町上不様町舟木店まる喰町を越す用度あり  
あり二丁同裏通り同三丁同表通り同表通り同表通り同表通り同表通り同表通り同表通り  
町様町同裏町同裏町表通り同表通り同表通り同表通り同表通り同表通り同表通り同表通り  
末次町二丁同表通り度小路少て小休あり末次町二丁同表通り同表通り同表通り同表通り同表通り  
より同表通り同二丁同裏通り同幸同表通り同表通り同表通り同表通り同表通り同表通り同表通り  
二丁同裏通り様山同朋町善松町村松町二丁同幸同表通り同表通り同表通り同表通り同表通り同表通り  
より度り竹河岸より又通り尾町裏通り度り又同町嘉多里緑橋渡り左へ油町河岸色小崎  
る町三丁同河岸通り同三丁同幸井町小橋渡り○善井町もる喰町を丁目河岸渡り度り  
善井町裏河岸○志立東橋と度り小崎ると町代地と有やうにより○又善井東橋渡り小崎  
る上町○らうや裏つ通り新町本戸近江へ度り同二丁同三丁同同様町同二丁同通油町左へ  
元浜町同法町小野乃若谷町加野乃若谷町同法町を接南野乃人形町又若谷町同法町  
川岸より元浜町河岸左へ野大坂町○経主東町○田町同野大坂町○田町同野大坂町  
二丁同様町より善井二丁同へ入○左へ野大坂町同様町通接多摩町先大坂町銀座通り  
戸より度り又元大坂町より同様町へ入度り岩代町貴原町野乃通接多摩町先大坂町銀座通り  
あの毎より度り又右へ河岸河岸小細町二丁同二丁同幸同小舟町二丁同二丁同幸同通り援  
橋町幸同二丁同○へ経勢町善井町本町二丁同幸同二丁同○通り接せ町本船町同河岸通り  
漁戸船町○本小田東町幸同二丁同○通り接せ町本船町同河岸通り同本船町程玉神輿  
幸度り度り又室町幸同様町同二丁同○通り接せ町本船町同河岸通り同本船町程玉神輿  
中様町へ入長浜町幸同同様町野乃通接多摩町幸同二丁同幸同二丁同幸同  
幸同二丁同幸同同様町野乃通接多摩町幸同二丁同幸同二丁同幸同二丁同幸同  
あり萬社渡河及筋多きり度事旅西へ思ゆる事深也又主曉え及へり

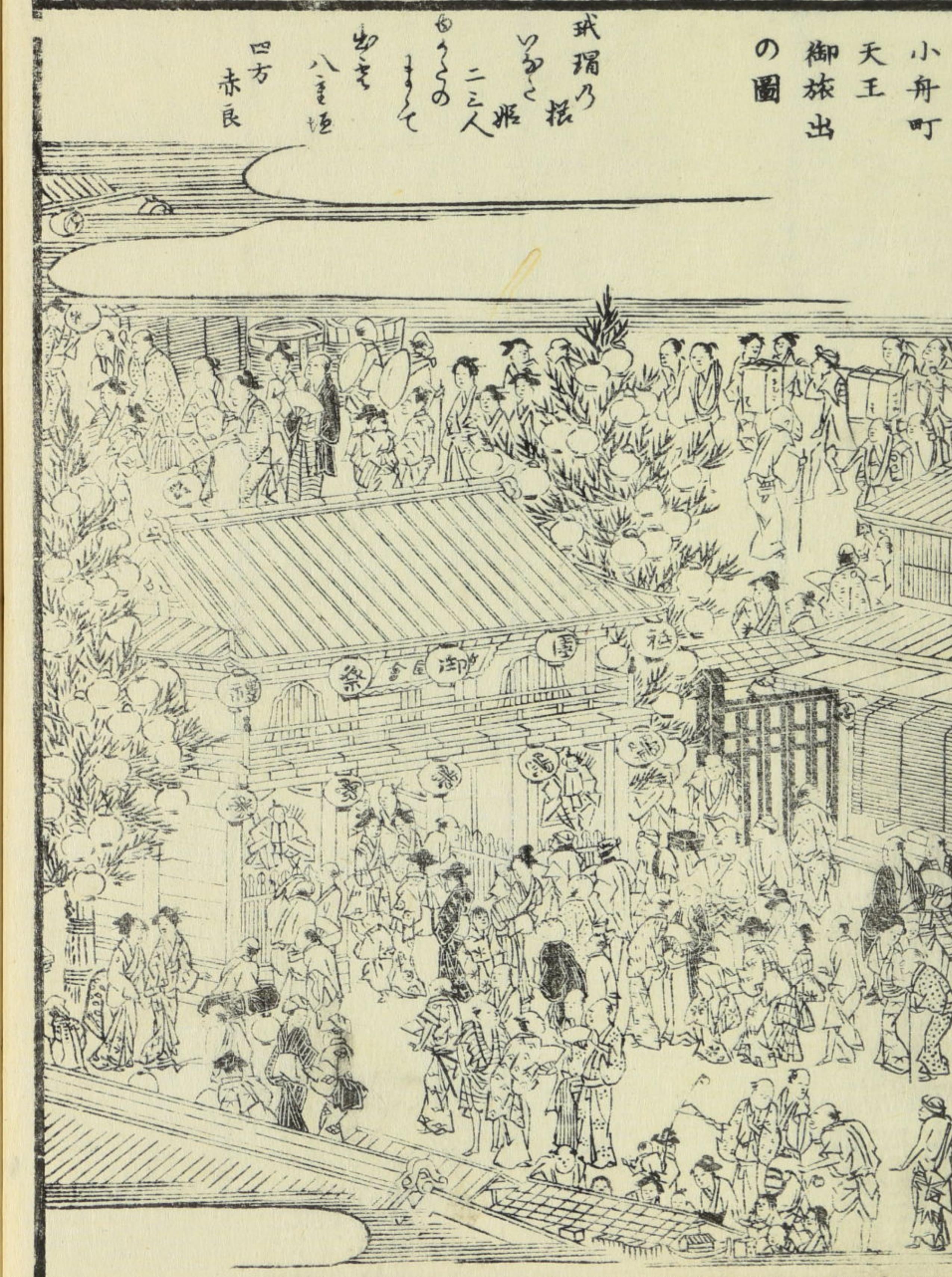
六月五日  
大傳馬町天王

御旅出の圖

祇園迎神會

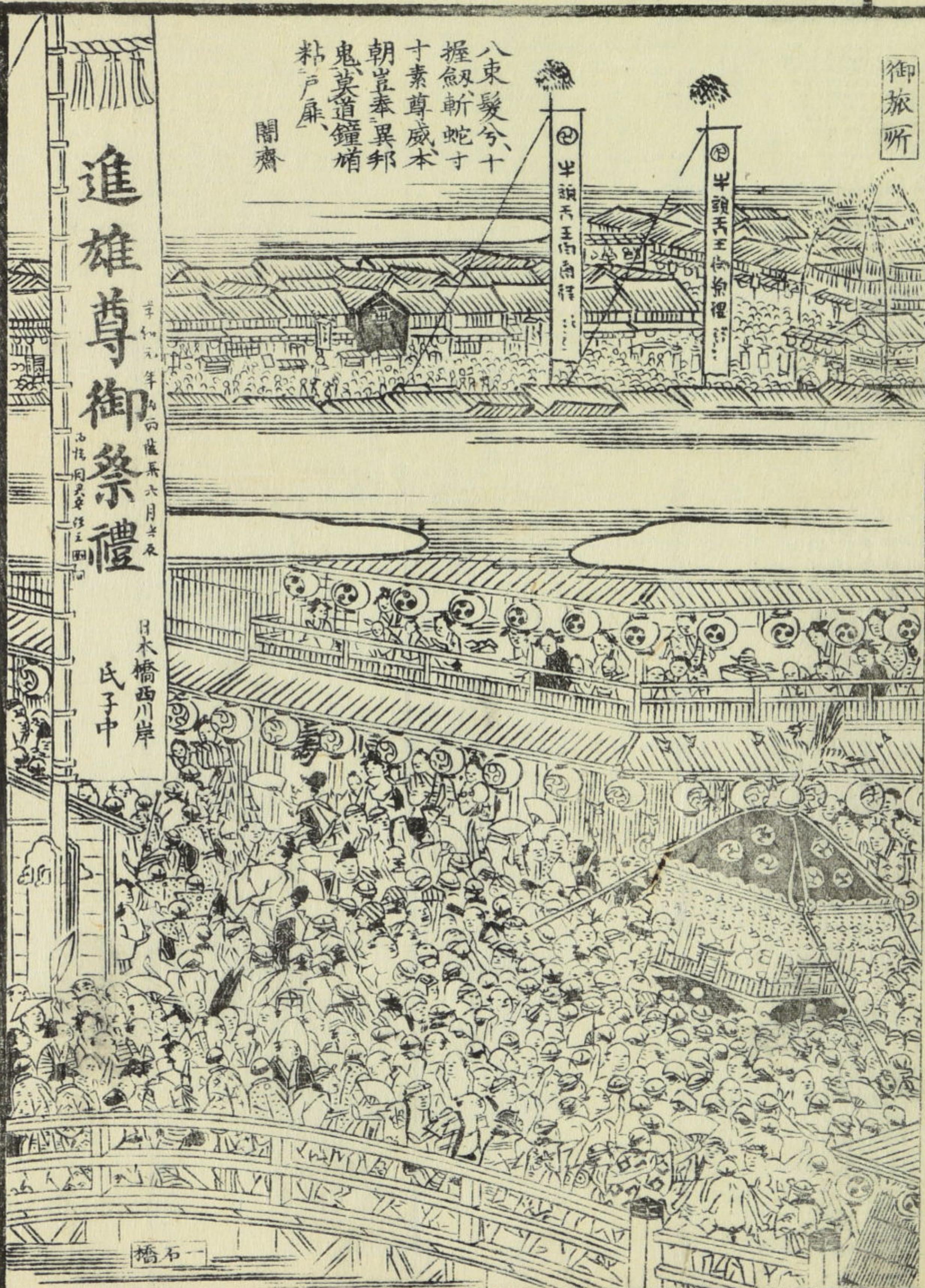
大傳馬町二十一日  
若者中





南條天王御所

八束髮兮、十  
握劍、斬蛇寸  
寸素尊威、本  
朝豈奉異邦  
鬼、莫道鐘馗  
粘戶扉、



進雄尊御祭禮

日本橋西岸  
氏子中

十三日 沢社乃筋申刻山後屋と出で小舟町二丁同二丁同左へあくめ橋より鹿り延尚  
左子同トアリ左へ大様町通り左へ本石町左同三丁同左へ今川橋通り湊田町より筋遠  
渓門と出で油谷通り聖堂縁の坂より左へ登り社地一還轄あり

産子の町へ、小傳る町幸子同 同二丁同 同三丁同 元浜町 橋町幸子同 同二丁同 同三丁同 同三丁同  
船之原町 五町幸子同 同二丁同 渋戸橋町 本町三丁同裏油屋 通食所幸子同 同二丁同 同三丁同  
同三丁同 本年町早同 堀畠町幸子同 同二丁同 幸子町二丁同 同二丁同 先大坂町 委計町  
水内町 因裏河岸 村松町 喜松町 久松町 箱沢町 本石町  
三丁目 同早同 忍井町 小傳る上町 同代地 左肩屋妻 小網町幸子同 同二丁同 同三丁同  
岡寺町同 桂町 同二丁同 金油町 野村本町 下脚系同明丁 同形跡 塚町 岩代町  
堀江町幸子同 同二丁同 同三丁同 堀江町同 菊屋町 菊屋町 伊勢町 本多森町 旗施町  
東沢町幸子同 同二丁同 同三丁同 高野町 横山町幸子同 同二丁同 同三丁同 菊浦酒造亮  
新宗内町 広介屋妻 古久布屋金義 本多町 長沼町幸子同 同二丁同 宮元山舟町より  
十一日○大塚護志寺山内富士あり十三日近奉行あり

十四日○今明日龜戸齋取太神宮祭禮 神主 齋取氏 今晩亥の刻より神樂獅子隊  
齋取氏 今晩亥の刻より神樂獅子隊  
龜戸出村木の村へと渡る  
齋社の西後廊とて吾妻森より東田の津ふりの北あり社古參礼詣りし船は停  
りり印と流りもの止りする西の櫻掛と室とへとて剣印と流りなるふこの所よ止む  
仍て西櫻掛と定められの時じ地へ神樂を進すまゝも經古の地あるをすほの  
例とりや参礼の式放てしよりへの経ふて西櫻掛と室とへて小妻とふうとをきへまことに  
粉をうけて薄の著を替へて山伏屋にて宝物が少供一產子の人民も是と食は經古  
おの辺人民少くね之しきのうみか寄つて今うち引へとせ  
○小村井村番丸太神主祭今朝日純羽前高麗妻森宝蓮吉兼弟に林幣を換ひ奉る

清川のあゆ去僕もさん葉落木

○山王神祭禮の節日なり  
世俗宵宮との如きを衆同類聚抄より  
齋教なり  
今日午の刻初め社傍本堂純朱七条と爲一  
布衣童子退紅白丁糸の流者法師  
武者ふ道場ノ社奉は於て讀經あり退散の後神主東常社家烏帽子緋袴より布衣未

抱向丁の使者と身に付けて祝詞伴樂あるひるあり、賣手の町より今日より出  
遙御列をかゝて街とねりありく處より、筋の或處町屋より十三日より機織成  
織幕と絹花筵毛纏と浦金屏風と立軒桃灯あまらひやう御て今日より賣密と連  
へ珍酒肴と食しありまじきとまわ街の旅ひを度よ

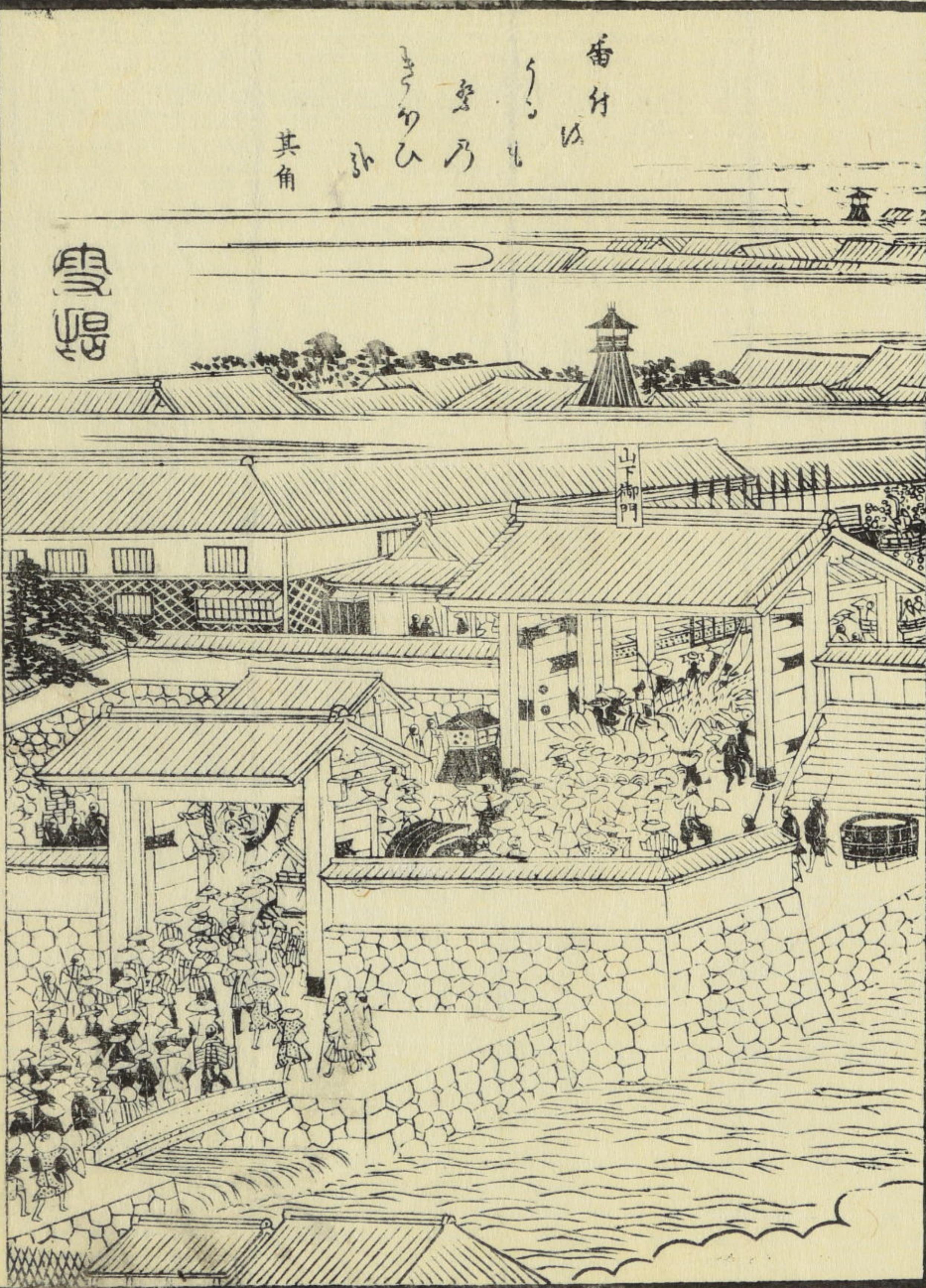
千九百〇九年正月の事  
永田馬場同志山王權現社御祭礼  
別當勤理院神主樹下氏

子寅辰巳午未の年  
別處動理院神主樹下氏  
シユウ  
久元和年中

入るよりとより入寛永十一戌年より大祭とより天和の年に隔年より乃もせりとを  
高社御参れ、京都第一の大祭なり。毎日往來と止く櫻りよ毎日と朝と夜と  
柵と締じ接處ハ二階と禁せし諸度よりハ長柄槍懾と出で登車せらる又作る  
ふと率せしる鷺の木の仕士羽列と稱へて處まうり

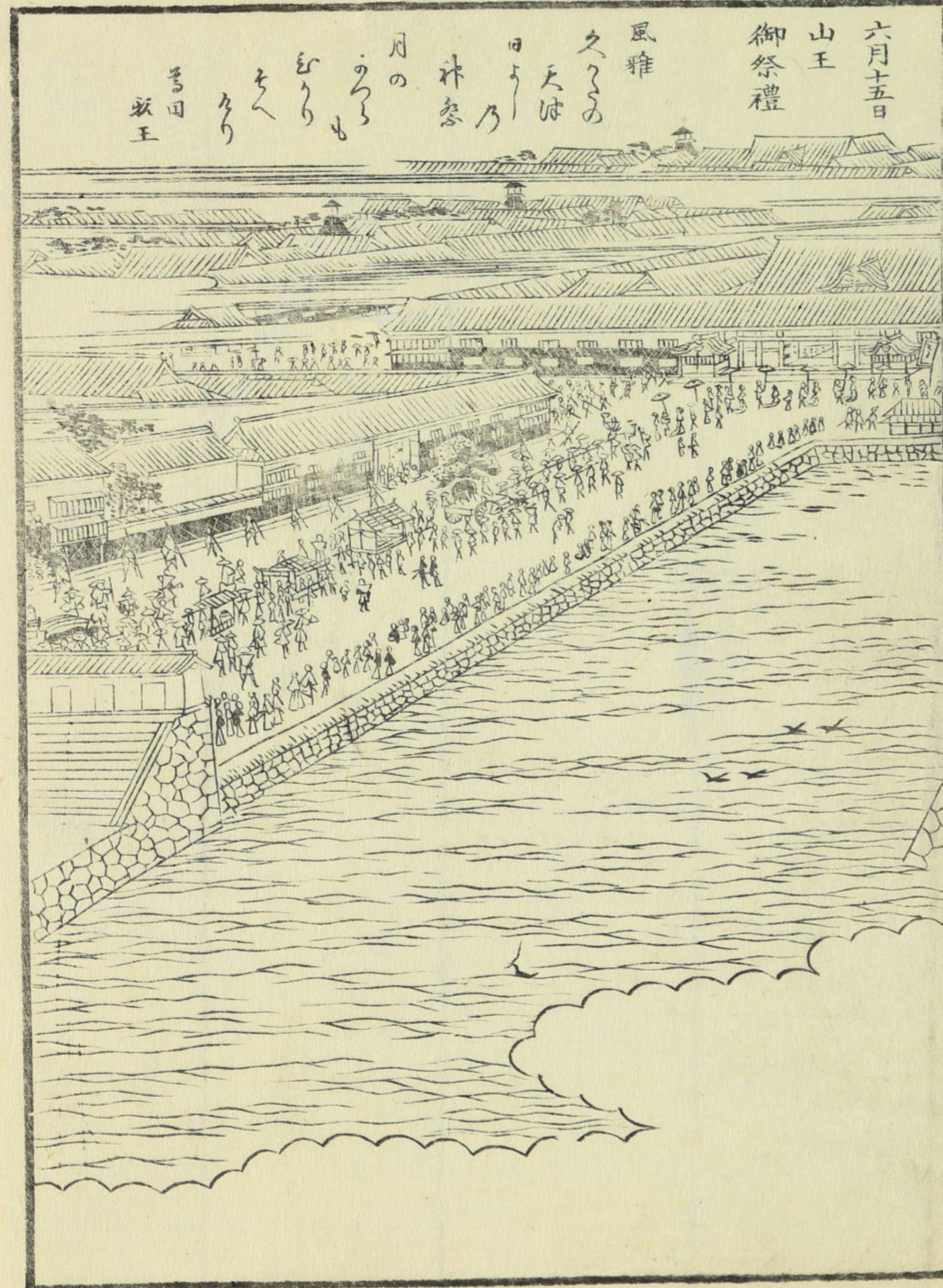
の幣より越年に番の宿正月奉年暮入形本の半は案札の年暮よだづよじゆるを余候年暮  
半あり附多とあつてたの町より出よ源と頤り社り也曳ひの。毛毛と年暮  
向あくとすして各花美とましに府の繁昌は時とあく羅山と毛毛と看るの徳あり  
あるよ暗をちよ記る番付の肉への下と付すりも付祭とむきに例年半色は  
○大鷹の町鶴禰鼓の半へいふへするとりとて一番よする二番ふ鶴の半とほりと  
が元和のじうとくのあくと  
ムヒ拿あらとすりとて一番よ渡ます事とすりとすりとすりとすりとすりとすりと  
南はる町の二丁と多長の前よりの町風すりとて主初以来より付祭りとせばきなーは  
鶴山主祭すりとれふをすりたとばは出一神田祭すりと白鶴とせばきなーは  
○あはる町猿の生一、高井祭せられと初祭來より半タクの様の面、日吉齋平と云ふ  
作なり一、年々破壊して眼鼻の形も已残り室を水のぼりと不用して今茅場町天満宮  
の神主諸井某翁せり長年寺種希代の古物なり今の面ハ額室水佑の作なりと承  
○鶴町より朝鮮人来船の持りりのとて大多る象の造りりのとて  
今ハ年く少しきにて付祭の番よあり一時もまとめて

清祭紅番組御神事行祭之御業  
主祭 太鼓 拍子 家駕思  
一 番 大崎町二 番 南崎町三 番 鞆町十三丁分平河町山元町六本  
三左衛門町本村末町幸子目二丁目三丁目四丁目四 番 小王町南大坂町丸尾町五 番 小舟町坂筋町  
幸子目二丁目五丁目六丁目七丁目八丁目九丁目十丁目十一丁目十二丁目十三丁目十四丁目  
本町里今岸付町本革屋町金原町八 番 稲沢町品川町同裏河岸小鞘町本多町九 番  
戸越町伊勢町本小田原町十 番 宝町二丁今本船町安町本町二丁目裏河岸十一 番 大石町里今  
牛二一本十五 番 渡田町通引石町連雀町十六 番 谷倉町三河町幸子目十七 番 小網町十八 番 野林木町  
十九 番 新家町北番 哥町葛尾町佐吉町雄波町雄波町中之本廿一番 野天坂町因木町通油町



慶賀

番付  
其角  
争乃  
争ひ  
其角



六月十五日

山王  
御祭禮

風雅

久之の  
天は  
日

神參

月の  
うる  
ち

山王



又元禄四年  
江戸名所  
あああ  
ひやせと  
よるは  
徑あり  
のせうり  
はひ山と  
奈の方云  
あああ  
へー

寛文上梓  
江戸名所記

神り

そわくえ

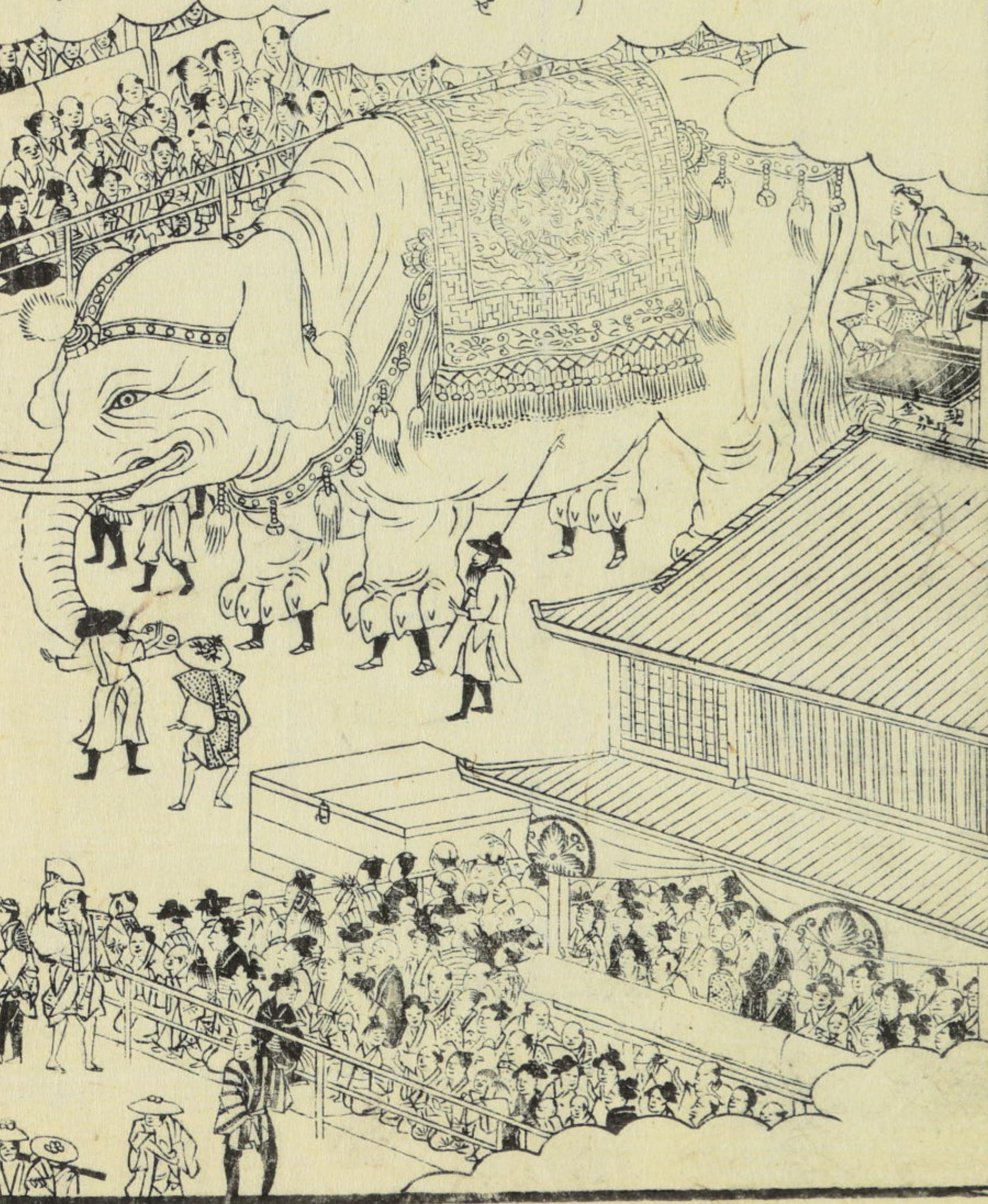
ひやせ

まつり

かゑの

ふの

手め



東都歲事記

卷二

三十

北三番 富沢町長谷川町 北三番 銀座四丁分洋美出一 北四番 通四丁分吳服町先大工町 北五番 檜  
町上林町出二本 北六番 本林町里丁分 北七番 本林町里丁分 舟町元四丁市町内町出一 二本 北八番  
大張町本林木町八丁目六丁目七丁目出一 二本 北九番 美濃町美濃町東濱町 北十番 桂正町南  
油町川瀬石町小松町音羽町平松町毛衣萬町 北十一番 滝原町炭金町下桂町緑町 北十二番 本守町  
北十三番 本湊町 北十四番 南糸屋町糸屋町弓町 北十五番 行門町出三町芝に至丁同西側 北十六番  
北十七番 本守町糸屋町糸屋町弓町 北十八番 南糸屋町糸屋町弓町 北十九番 敷寄居  
町四番 灵巖寺四丁市町内濱町美濃町李子同小野町 大川橋町南糸屋町弓丁同四丁目 北二十番  
八舟吉原町糸屋町弓町 北二十一番 本林町八丁目柳町县足町糸屋町弓町 北二十二番 本守町  
北二十三番 本湊町 北二十四番 本林町八丁目柳町县足町糸屋町弓町 北二十五番 行門町出三町芝に至丁同西側 北二十六番  
北二十七番 本守町糸屋町弓町 北二十八番 本林町八丁目柳町县足町糸屋町弓町 北二十九番 本守町  
北三十番 本守町糸屋町弓町 北三十一番 本守町糸屋町弓町 北三十二番 本守町  
油轡行列 小旗 大簾 長柄繪 太鼓二持人十一人 柏坂二人 田樂二人 櫛子持二持人  
大口人 社家議る 飾絆三番世二人 社家議る 神手 社家議る 伶人二人 頭高者三十人 油幣持  
社家議る三人 一の宮祭奉 大傳古町 六拍子持三人 神妻 捱人六十人 油幣持  
二人 遣り兒童人 六拍子持二人 神妻 捱人六十人 油幣持 一人 神机持三人 社家  
滿る 二の宮祭奉 小京町 三番世二人 神妻 捱人六十人 油幣持三人  
遠り兒童人 大拍子持二人 林裏 捱人五十人 油幣持二人 神机持八人 二の宮祭奉  
赤傳 社家議る 素袍三十人 油幣持二人 遣り鬼一人 大拍子持三人 神妻 捱人半人  
清張板持二人 神机持六人 社家議る 衆徒十端 武者とひ 別當方要 油之轡  
長柄繪 五外供奉鑿立験一  
未明出 遠りの山下門と入日比谷門の油燈籠よ満て 稲田寺門の前より左の通りと裏田  
家並木に近い南番付坂とこの通りの通りの登り山下門の前より右へ水田町梨の坂下より油燈籠  
通り山下門より清内麻へ入竹橋門とゆき太田米酒井家山下門より通じて山下門より左へ  
を壁橋門とゆき山下門より退散を神妻ハ祭列とれさすまより本町二丁目二丁目  
より十軒店舗本石町二丁目写同より左へ猪俣町とゆき猪俣町と大傳町の写  
天平寺や土車其角「素付」と書くもまづりの字をひう跡全

○赤坂氷川明神祭礼 別當大祭院 國土記より天武天皇三年甲戌  
石へ大傳町主丁用と並び同三丁目田町左へ延長二丁目主丁用より左へ小町通り小細  
町と並び塙橋渓右へ是屋橋渓の蕩場町通りより所旅あるがはるかに奉幣持り神體  
然御坐すより海城橋添りまゆ町より主丁用へ出大通りと尾張町まで右へ山下町不  
山下町門と入り先のた筋と通済本社へ還差あり。年中乃度大成より都祭神社内  
京師ハ經國會大坂ハ天溫祭は戸ハ少主御食客にて日本の大主と云とどり「御幸そ  
天平寺や土車其角「素付」と書くもまづりの字をひう跡全

○赤坂氷川明神祭礼 別當大祭院 國土記より天武天皇三年甲戌  
丑卯巳未酉亥の年隔年又執事ありて十日より始へり十八日より終へり廿日より後集人萬人  
櫻子通引をあらざれど山王樓現神田の神事と續り太鼓花火、奉手の附く小幡等  
御り物とゆて花火とぞせり祭列承手番組たの事と

拝神る 猿田彦 獅子持二一番 赤坂表侍る町主丁用 二番 国二丁目 三番 国裏  
鶴子町主丁用四番 同二丁目五番 同二丁目六番 元赤坂町同代地八番 赤坂町一丁目二丁目  
三丁目九番 同三丁目六番 同二丁目七番 赤坂一本町魚店大坂町十三番 赤坂町  
主丁用十五番 同二丁目三丁目十六番 同二丁目七番 赤坂町同代地八番 赤坂町一丁目二丁目  
二基 神主持る 社家二人 別當乘輿 長柄繪二十筋  
今れの時より始り氷川社神事と並ぶ赤坂町通み丁目より主丁用同表侍る  
町主丁用より南へ同二丁目と一本町の写ましより引返へ先の表侍る町二丁目と  
主丁用の写ましより左へ同二丁目主赤坂町とゆり同町と裏侍る町  
主丁用の写ましより左へ同二丁目主赤坂町とゆり同町と裏侍る町主丁用  
入左へ赤坂時代地と一ツ本町の通津とある幕左へ同町と主丁用と本町と裏侍る町  
の写ましより左へ同町と主丁用と本町と裏侍る町主丁用と本町と裏侍る町

ゆりみす因と武家地の右左と武家地と一木町塙坂通りより引返し先のちよし本社  
後の武家地のるみて繰る

○後年之社主現祭礼 今日未ま田舎より人々の着人鳥帽子を冠と冠て毎年の事  
幣とお供應は田舎の着人相板物と人箇吹き人た數お二人のきも絹華と冠う次ふ太鼓頭剣と隨  
本院より御神堂のあゝ縁どる。翁廟小聲り相板浦ありより餘りて居るの者もより下り立草ニシテ女  
の面とくもりくさりの舞とあゝ外うちもく。翁てあふえ人た方と接物で舞ふやありとむる、  
田例もて翁廟より出ず田舎の着人雖もあふむりの各田家もてそのうち故世を出候の時藝と能  
ひて安坐せ。十人の巫若事めまわりとひよあひ神もり、済食の在大森再興ましくと云候よ  
○橋場牛頭天王祭礼 神明宮境内よりあり神事私坐して川へ出しひ神事と擇く者  
いへり藻穂集連考よ云神明宮神事某の傍より橋場神明宮の地と沙入との神明宮乃  
多れ育十日より泊入のゆ一ひもじりとて今ア町と神事後らせらきよ民ふとも  
悉く坐てうつきゆよ一人とてま神事の様よと付るゆゑく悉く肩井をりゆき  
ありひくほらきり振くがゆひ事と云ふと云。今日ハ牛頭天王の多れあまと神明宮  
の多れともひくと徳一也。

○山谷熟田明神祭礼  
十三年未六月までも毎年たの町より六番の牛一頭り物  
事由り乍ら同一年より牛絶也

○隅田川水神社祭禮 易志多ヘ奇神事  
二基之御子ノ  
○御濱妙見宮御帳 易志多  
淡性考

水局  
者人置業多向之全

○高田宝泉寺  
冨士系十八日述  
甚よ度外の事尾法商人多く出る

○白山棧曳裏門通り妙傳寺妙見宮國帳  
○芝浦小輪綱十日迄製織禁下て今日より十六日

○六郷八幡宮祭礼 別高達長寺六丁の地にあり神奈吉基羽田より太師河原へ往來より冥界同の予拂洋木也

○河内山王権観祭礼  
社同治本氏十二月より十二宵迄あり今日當日より社裏二基  
御田村の旅更に神幸より終中少く花生一踊り等半て振る

年正月の内裏海防の差し付する御幣七車、江安の邊の物として高社の御宝より

者ノ理セシ又シテ食招  
と個人拿すもナラズテいふ一人への例ナラタヘモナヤ

山王神社参拝  
妻の装束と手袋にて本宮を見物の非車社  
アヅマ  
妻森安妻桂観衆  
別高宝蓮寺

七日○木下川藥師堂  
キゲ  
神君濟神影坐拂曳て説禮をゆる

○は時節より二度の芝居公用体とて狂言を体もろの写用志むかと爲付く  
着もの役小屋の華<sup>ヤクニヤ</sup>中通り小つわの俳優<sup>ヤクニヤ</sup>あつて其行もをさばり始<sup>ハタハタ</sup>り

○四谷天王稻荷祭 社勢神田の社家本村民別高宝義院今日一  
月廿日午後三時より四谷二丁目小御へ移居式ありて神主一基  
行儀出

六月十九日  
本所一ツ目辨天堂  
琵琶會

七十一番職人盡  
歌合  
琵琶法師



あり事旅本の左右へ因因界外牙飾絶歩と歩く表徳寺の町へなの如一飾り物ありて  
縦ひ大方を以て神事通乃だ筋後輒よ出で

○天王産子 四谷侍の町幸丁目 因躬幸丁目 因三丁目 因清町幸丁目 因二丁目  
因三丁目 因忍町 因仲愛町 因山篠町 因坂町 因竹町  
因武都小、仲町の内会くる場 桜坂横町 葛原横町 左の横町 恩宗横町 表畠町  
裏大妻町 桂幸も横町向 之外武都地

○稻荷産子 元駿河横町 因仲町 駿河横町 因南町 因仲町 因表町 因八軒町  
裏町に安住駿町 安樂もつあ 横田京之助家 駿河横町裏方

今因里前より神事ニ基美、獅子門ニ奉手と廢し申利田種石へ島あり但、今日坐要  
の門も二基より小天王の產子と廢し、一日被裏時六二基ともう一横筋の產子、該海毛  
獅子門ハ町の内年番と字を拂るなり、は獅子門の内、獅子門にとあるる様は布を  
結ふ事無く、之よりのやまとつてあり、いづれの產子の町より織ありとひひくへらあは  
參詣年古まきハ隔年たりを世へ年く不孰乃あり

○駒込序町大圓寺秋葉社祭礼 ○戸田相恩山權現參拜 別尚光時も

十九日 ○ 本所一ツ目辨天社琵琶會 東由二月の件と合せりと今、今日京師より納涼  
涼とよもと京保闇板の修ふ事中、仍夏中、又其の修工の内、母公の追役は修する所と云  
間々見えぬ風をよびの原因、拙口「因中、度改めやく涼哉其角」

廿二日 ○ 大塚若翁谷林泉寺志ばり地御子同系今明日

○ 淀川緒江摩利支天渡神除祭名越後修行



六月廿四日  
芝愛宕社  
千日參



廿四日○芝愛宕權現社和日系

別當田福也

世作里方六日ともひけ日よ詫すハ

この日數は向とひよ船と夕延き神樂集としと權現の如一境内にて青破舊と舊ふ佳人是と偕して癡或小児の虫の根と切らとひせば、を隣のち年少にて山より眺をすれまく房総の辺にはようびとひ芝浦の風氣多小豆がおとく沖羽舟もほだく參へぬと近す又船邊へ松枝齋とて夏日よおゆる昇きハ源史やくと之御の署と忘れ殆候小松とくわやとくま

○小石川戸崎町喜運寺地義子日系

土人至腐地義とひ人多く拂りぬあり

○本而野久愛宕社坐清め橋の向あり○神田岸元町地義事

○油茶幸珍も清正公あり

○白金樹木谷観林寺清正公社祭礼

閑

○油茶幸珍も清正公あり

帳用帳子卷だりに

廿八日○能戸天満宮名越神事

早朝神池の邊は弓矢木の仮をめよつらだを奉事人

夕方より御経繰りて神池より投毛矢へ神事と

詔書延一豊川より一の橋の川に延波津ありこの川又波津にて御ひしり今と全般の身

なり今貝神事を出もとまよへり

○大塩西向天満宮祭礼

別當大聖院隔年より

○大塩西向天満宮祭礼

九月廿八日より

廿九日○南八町塙伊雜皇太神宮祭礼

廿八日より廿六日まで十二度神事あり

○不丹妙法山兩山忌 天目上人の忌あり

○相州大山參詣の非季廿八日の頃より江戸と立つ

江戸差々をふとまうの

○相州大山參詣の非季廿八日の頃より江戸と立つ

江戸差々をふとまうの

○初山又数日六月廿八日○七月道七月朔日○相の山又石盆前追アサと云。盆

山十四日より十七日鉢山追アサと云

良知信都の開基中て吉良家高麗守属

廿八日○佃島住吉明神祭礼今明日修行

神主平昌氏小の因ハ名越後と同日く

海中より昇入奉る今日源川佃町より遙拜の仕ありて參れ候りあり

○南河源川社參れ候り通がる中まう院

○南河源川社參れ候り通がる中まう院

ツクダミヤ

○

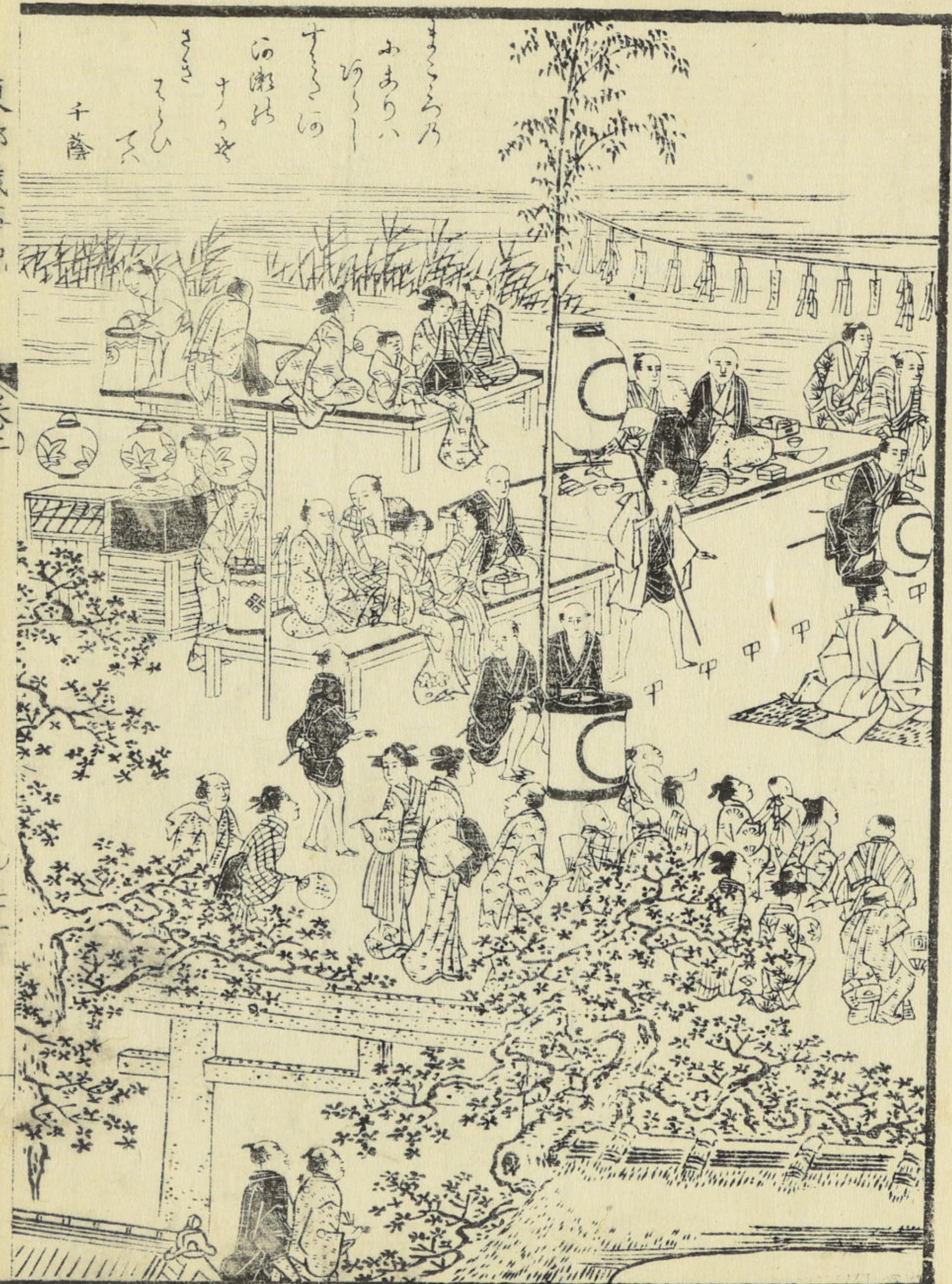
三

真先神明宮  
夏越祓

視吾堂集

おのづら  
すみ川

吉川惟足



○而川跡も古文書を外諸付卷と継せし

廿九日○涉草寺盂蘭盆會  
ウラボンエ  
一山の荒徒観世音宝あよもひく修祓あり  
雷神門の前よ施威鬼棚と被く  
土居の川又よ於て執事

行之以明和  
芝和日官刻  
和以同和年刻  
和以同和年刻  
和以同和年刻  
和以同和年刻

越國の和歌大和宮  
内に因モ紅葉ノ花紅葉  
谷外備神社より神樂樂舞あり神樂舞祭りて多  
く輪と城とし酒邊は隔り多く亦よも鹽よ冰とありて水若井川よ比まく

○は日唐人鉢と云ふ、底盤の形は切て極りのと一川へ投せ  
○油茶寺花構ハナカラ 己の割本堂へ別當大堂也此より  
圓散花經板乃は花焼ものなり

○今より七月晦日まで家に外は燈籠桃灯等焼を  
コグニトモ高坊ゆき白

とまともゆりも院へも焼菴あらも○下旬煙鶴臺あら  
○今朝より吉永仲ヤウ<sub>ヤウ</sub>の町両側の茶庵ふく家毎よ様の燒菴城出す  
互よ

又、御邊に附、遠きのアレにシテ、  
ヨリ内ひテ、廓中燒薪の始りハ、角町市方市屋の名收玉通ト  
シテ、間忌の追薦ツイゼント

とて享保十三年の七月二十日切子をうろこと出でる。又もひくは破蓋ともへる者の  
巧よ始りて今の如き壯觀とふるまわり玉菊うは、詔書より出て世人の心を和

蓮○小暑の后  
廿日以來不思化  
東都第一の蓮池より荷葉あけりて水面と墨蓮萬姫<sup>アケガタ</sup>と  
して鮮<sup>ハヤシ</sup>く翠<sup>スグリ</sup>く芳<sup>ハラハラ</sup>香<sup>ハラハラ</sup>又<sup>ハナ</sup>すん<sup>ハナ</sup>あり毛<sup>ハナ</sup>と賞する聲<sup>ハナ</sup>、  
身<sup>ハナ</sup>弱<sup>ハナ</sup>。

よりはゆきよ逍遙を妙善天の洞環柏ウツバキ戸ゑく毎夜翁雲版オシハシハノシを售る高木の名産と云ふ

フイヨウシウ  
仲美蓉洲 仲美天  
の御あり  
鷺田川本母寺 同前の小丹毛の赤

アサカホ  
牽牛花○雨の桂木屋  
モテツリ  
吉崎村百花園

文化の末よりは花の奇品と號ぶ世に絶き名をも遺ておらず又培植多  
巧<sup>タチミ</sup>にて千種万色<sup>シラフシロ</sup>なる物也。都鄙の好人<sup>ホンジン</sup>が小遊會<sup>コトノハ</sup>とまづけ早<sup>アシカ</sup>日<sup>ヒ</sup>に數々の名もと鷹<sup>タカ</sup>へ乗り優劣<sup>ヨウリ</sup>とさざくあ<sup>サザク</sup>に名と儲けぬ<sup>シテム</sup>も形<sup>ル</sup>と少<sup>シ</sup>とも

支那ハ異様のりゆうて愛玩すに足りずされハ異年の中やうて末政の娘より絶し  
宣り○此是を鷦鷯桂枝賣ありく

菜○武芸社より自然野生の事あり今ハ畠工作り春分種とト一夏同白花誠  
ちくく形核枚み似く少く小く核よりて實のり冬よりて根と掘り取工

龍志　洋入風の東に都繫花より紫深の緋衣女子の好んで弓流行せりより中世  
江戸にて名物となりぬ今を生すと里根と称し奥羽絣津燈籠より江戸へ運送する  
ものと云ふと多す余古、モガミの考証より之に因りて之を江戸風也。

古今むすきもあひゆりとやゑよひづくせのまはまちありぬとせよすよ  
小咲小町集

じきのよおぐききくにむしもまくのまのまくねまもむくま

○虫糞綿団ごとくにゆく虫糞の細玉とつて虫糞なりのあり

絹がまきえのまくや志のうんうらむしゆのまくは 光後

○毛根ひ跡どろろうわぐき桃灯を外毛この煙草桃灯作以會自あく葉入

江戸歳事記卷之二終

